

《専門教育科目》

科目名	コンピュータ演習			科目ナンバリング	C1011L◆-003
担当者氏名	河野 稔			担当形態	クラス分け
授業方法	演習	単位・必選	2	・ 必	開講年次・開講期 1 年 ・ I 期

《授業の概要》

この授業では、大学・短大での学習活動に必要な「情報リテラシー」、つまりICT（情報通信技術）による情報を活用する能力の修得を目指します。

具体的には、情報検索をはじめとするネットワーク上の情報の活用、文書作成、データ処理、プレゼンテーション等、ソフトウェアやサービスを利用するための技能を学習します。また、システムの仕組みや機能、情報倫理など、SDGsと連動する今後の社会の姿である「Society 5.0」を生きる上で欠かせない知識

《テキスト》

○毎回の授業で、授業内容を説明したプリントを配布します。
○配布したプリントやその他の資料などは、LMS（学習支援システム）や授業用のWebサイトで公開します。

《参考図書》

○情報教育学研究会・情報倫理研究グループ編(2018)『インターネット社会を生きるための情報倫理 改訂版』実教出版。
その他の文献や資料は、適宜、授業で紹介します。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-4 情報を収集、処理、発信できる力	大学・短大での学びや学生生活に必要な基本的なツールとして、ICT（情報通信技術）を活用できる。
		目的に応じてソフトウェアやシステムの適切に利用して、情報の収集・編集・発信に活用できる。
○	1-3 コミュニケーション力	情報社会の問題や影響を適切に理解して、ICT（情報通信技術）を安全に利用するための判断ができる。

《授業外学習》

この科目での授業外学習では、復習が重要です。配布資料を確認して、授業で説明のあった利用方法が身につくように練習してください。とくに、「文書作成」「データ処理」「プレゼンテーション」の実習では『まとめ課題』と『総合的な演習』があるので、学習した成果を実践できるように準備しておいてください。
また、修得した利用方法を他の授業でも生かせるように、日ごろの学生生活においてパソコン等を利用する機会をつくりましょう。

《学習状況・理解度の確認》

提出課題や成果物には、ルーブリック等を用いて教員からの評価をフィードバックするとともに、学生間の相互評価により理解度を確認します。わからないことはオフィスアワー等で質問を受け付けます。

《備考》

ICT活用双方向型授業で、パソコンを利用した実習を行うため、2号館のコンピュータ実習室が学習環境となります。
また、小テストや課題の提出、成果物の発表にはLMS（学習支援システム）を利用します。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	5
レポート	0
発表・実技	20
授業内課題	50
その他（アチーブメントテスト）	25
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	授業全体の説明／学内ネットワークの利用手続き／各種システム（メール、LMS）の利用	タッチタイピングの練習	45
2	インターネットの利用(1)	インターネットの仕組み、電子メールの利用とマナー（基礎）	Webメールの操作の確認	60
3	インターネットの利用(2)	電子メールの利用とマナー（応用）	電子メールのマナーの整理	60
4	インターネットの利用(3)	検索サイトの仕組み、検索サイトの利用	検索サイトの活用方法の確認	60
5	情報倫理（情報モラル）	インターネットの光と影、情報倫理のビデオ教材の視聴	情報倫理のポイントの整理	45
6	プレゼンテーション(1)	文字が主体の基本的なプレゼンテーションの作成	プレゼンソフトの操作の確認	60
7	プレゼンテーション(2)	図やアニメーションを利用したスライドの作成／プレゼンテーションのまとめ課題	プレゼンのまとめ課題の作成	90
8	文書作成(1)	レポート形式の文書による基礎的な文書の作成	ワープロソフトの操作の確認	60
9	文書作成(2)	文書のデザインとレイアウト／文書作成のまとめ課題	文書作成のまとめ課題の作成	90
10	データ処理(1)	表形式データの簡単な処理とグラフ作成	表計算ソフトの操作の確認	60
11	データ処理(2)	関数を利用した処理とグラフの活用／データ処理のまとめ課題	データ処理のまとめ課題の作成	90
12	総合的な演習(1)	情報倫理を啓発するプレゼンテーションの作成	プレゼンテーションの作成	120
13	総合的な演習(2)	情報倫理を啓発するプレゼンテーションの作成および提出・公開	プレゼンテーションの作成	90
14	総合的な演習(3)	プレゼンテーションの相互評価、演習問題の作成	作成したプレゼンの自己評価	60
15	総合的な演習(4)／まとめ	相互評価の結果の集計／授業全体のふり返り	授業内容の整理	45

《専門教育科目》

科目名	コンピュータ演習			科目ナンバリング	C1011L◆-003
担当者氏名	佐竹 邦子			担当形態	クラス分け
授業方法	演習	単位・必選	2	・ 必	開講年次・開講期 1年・I期

《授業の概要》

パソコンなどの情報機器やインターネットを使えることは現在の社会では必須の技能となっています。幼児教育の現場でもICTの導入が加速しています。また、ネット上でのコミュニケーションでは、建学の精神でもある他者理解、対話が大切です。この授業では、学生生活のために必要な情報技術・知識を習得し、さらには将来にわたって長く役立つ知識を習得することも目指します。授業は毎回演習形式で行います。

《テキスト》

『つくりたい！がカタチになる 学生のためのOfficeスキル活用&情報モラル』noa出版、2019

《参考図書》

授業内で随時示します。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
○ 1-3 コミュニケーション力	ネット社会でのコミュニケーションが円滑にできるよう、マナーを身につける。
◎ 1-4 情報を収集、処理、発信できる力	氾濫するネット上の情報の中から、信頼性の高い情報を選ぶ重要性について理解する。
	数値データについて、基本的な処理を行える。
	伝えるための文書作り、伝えるためのデータ表現ができる。

《授業外学習》

【予習】テキストの該当箇所を読み、示されているYouTube動画を見る。操作のポイントをメモする。
【復習】授業内で学んだ内容を繰り返し行い、習熟度を高める。

何度も繰り返して操作を行い、慣れることが大切です。動画はスマホでも見ることができます。短い動画ですので隙間時間でも学習できますから、積極的に見て学んで下さい。

《学習状況・理解度の確認》

- ・個別指導が必要と思われる提出物については、コメントを伝達します。
- ・配点の大きい提出物では、総評を行います。

《備考》

- ・欠席した場合、次回までに必ず自習して追いついて下さい。
- ・過去プリント要求は、授業開始時刻直前は控えて下さい。
- ・教室内でディスカッションを行う場合があります。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	25
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	55
その他(取り組む姿勢)	20
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	シラバス内容を確認する。学内情報システムを理解する。実習室サインインアカウントを確認する。	学内環境の確認	45
2	Windowsの基礎 メール(1)	Windowsの基本操作を知る。 Webメールで送受信する。	p3, p5-12 送受信テスト	45
3	メール(2) 情報検索	メールのマナーを知る。 ネット検索を行う。	p228-230	45
4	情報モラル	著作権・肖像権を知る。 ネット上のコミュニケーションの特徴を理解する。	p200-227, p231-239	45
5	文書作成(1)	Word操作の初歩を知る。 チラシを作成する。	動画閲覧、 p26~27, p34~45	45
6	文書作成(2)	レポートを作成する。 (ページ設定、フッター、表やグラフの貼り付け)	動画閲覧、 p48~61	45
7	文書作成まとめ	文書作成に関する課題を行う。	動画閲覧 p26~27, p34~45, p	90
8	表作成(1)	Excel操作の初歩を知る。 成績データを整理する。	動画閲覧、 p28~29, p64~75	45
9	表作成(2)	成績データを整理する。 成績データを資料化する。	動画閲覧、 p64~75, p78~93	45
10	表作成(3)	成績データを資料化する。 グラフの種類と特徴を知る。	動画閲覧、 p78~93	45
11	表作成まとめ	表・グラフ作成に関する課題を行う。	動画 p28-29, p64-	90
12	スライド資料の作成(1)	PowerPoint操作の初歩を知る。 スライド作成の注意点を学ぶ。スライドを作成する。	動画閲覧、 p30~31, p96~109	45
13	スライド資料の作成(2)	スライドを作成する。 スライドの見せ方を工夫する。	動画閲覧、 p110~114	45
14	スライド資料作成まとめ	スライド資料作成に関する課題を行う。	動画閲覧、 p30~31, p96~114	90
15	総合課題	これまでのまとめとなる課題を行なう。	動画閲覧、 操作の確認	60

《専門教育科目》

科目名	英語	科目ナンバリング	C1011L◆●002
担当者氏名	野寄 一恵	担当形態	クラス分け
授業方法	演習	単位・必選	2 ・ 選必
		開講年次・開講期	1 年 ・ I 期

《授業の概要》

幼稚園やこども園で必要になる英語を中心に、日常生活に関係する英会話に慣れる。また、幼児向けの遊び歌やその他の英語の歌を聞き、歌い、英語に親しむと同時に、子どもに教えられるようにする。

《授業外学習》

予習としてテキストのCDを聞き、音読練習しておく。毎回授業の最初に、前回学習した内容からの小テストを行うので、復習をしっかりすること。

《テキスト》

『Speaking of Childcare』 Peter Vincent 中里菜穂子共著
南雲堂

《学習状況・理解度の確認》

毎回の小テスト、授業中の質疑応答等で確認する。

《参考図書》

授業中、適宜紹介する。

《備考》

テキストのCDを予習復習に利用すること。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-3 コミュニケーション力	英語のスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングに関する能力を身につける。
○	2-1 多様な見方や考え方ができる力	積極的かつ自主的に英語学習に取り組むことにより、課題を発見し解決に向けて思考する力を身につける。
○	2-2 社会や文化について理解する力	他者理解や異文化理解に必要な知識と態度を身につけ、多文化共生を理解する力を身につける。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	20
小テスト	30
レポート	20
発表・実技	30
授業内課題	0
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	Unit 1 What's your name?	授業方針の説明とクラスのルール、教室での英語 自己紹介 質問と答え 現在形	CDを聞く 小テスト準備	45
2	Unit 2 Where are you from?	出身地 国籍と言語 現在形の質問と答え (LRSW)	CDを聞く 小テスト準備	45
3	Unit 3 Good morning!	あいさつ 現在形と現在進行形 (LRSW)	CDを聞く 小テスト準備	45
4	Unit 4 Are you OK?	病気やその症状について 医療用品 (LRSW)	CDを聞く 小テスト準備	45
5	Unit 5 What are you doing?	幼児の遊びや遊具 特殊な動詞 (LRSW)	CDを聞く 小テスト準備	45
6	Unit 6 How are you feeling?	感情を表す表現 否定の質問文の答え方 (LRSW)	CDを聞く 小テスト準備	45
7	Unit 7 What's she like?	人について説明する 家族 形容詞 (LRSW)	CDを聞く 小テスト準備	45
8	Unit 8 Dos and don'ts	していいことと悪いこと 命令文 (LRSW)	CDを聞く 小テスト準備	45
9	Unit 9 Let's eat lunch!	食事について Letの使い方 (LRSW)	CDを聞く 小テスト準備	45
10	Unit 10 What do you want to do?	園庭での活動 want to, doesn't want toの使い方 (LRSW)	CDを聞く 小テスト準備	45
11	Unit 11 What do you have to do?	しなければいけないこと 助動詞 (LRSW)	CDを聞く 小テスト準備	45
12	Unit 12 I need to go potty	する必要があること 依頼のcan, could (LRSW)	CDを聞く 小テスト準備	45
13	Unit 13 Good job!	子どものほめ方 過去形 (LRSW)	CDを聞く 小テスト準備	45
14	Unit 14 Injuries and emergencies	けがと緊急事態 体の部位 過去形 (LRSW)	発表準備	45
15	復習と発表	復習テストと発表 (Speaking & Listening)	発表を振り返る	45

《専門教育科目》

科目名	英語	科目ナンバリング	C1011L◆●002
担当者氏名	本多 彩	担当形態	クラス分け
授業方法	演習	単位・必選	2 ・ 選必
		開講年次・開講期	1 年 ・ I 期

《授業の概要》

ロールプレイ形式で会話練習をし、実用的な英語運用能力を養う。日常生活に即したトピックについて相手の発話を聞き、内容を理解すると共に、自分の身の回り（日常生活、趣味、家族など）の事柄について、自ら発信できる力を身に付ける。また、ダイアログを読んだり、指定されたテーマについてプレゼンテーションの原稿を作成して発表することを通して読む力・書く力も身に付ける。

《テキスト》

『Challenger α1』ECC

《参考図書》

なし

《授業外学習》

小テスト準備として指定された語句を覚える。予習としてテキストのWord PowerとNotesを読み、知らない表現をまとめる。既習事項復習として音声を聞き、リピート練習を行う。

《学習状況・理解度の確認》

毎回の小テストで前回学習したことがどれくらい理解できているか確認する。また授業中の質疑応答でも確認する。

《備考》

ペアワークやグループワーク、プレゼンテーションを行う参加型授業。
講師は村角知子氏が担当します

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-3 コミュニケーション力	英語のスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングに関する能力を身に着ける。
○	2-1 多様な見方や考え方ができる力	積極的かつ自主的に英語学習に取り組むことにより、課題を発見し解決に向けて思考する力を身につける。
○	2-2 社会や文化について理解する力	他者理解や異文化理解に必要な知識と態度を身につける。多文化共生を理解する力を身につける。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	20
小テスト	20
レポート	10
発表・実技	20
授業内課題	0
その他（授業参加度）	30
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。	次回の授業内容を予習する	90
2	Situation1	Introducing Yourself（自己紹介をする）	小テスト準備・予習と復習	90
3	Conversation1	Jobs（仕事について話す）	小テスト準備・予習と復習	90
4	Conversation8	Food you like（好きな食べ物について話す）	小テスト準備・予習と復習	90
5	Focus1	Do you like celery?（食べ物好みについて話す）	小テスト準備・予習と復習	90
6	Focus2	What did you do in Europe?（過去にしたことについて話す）	小テスト準備・予習と復習	90
7	Conversation2	Past Trips（過去に行った旅行について話す）	小テスト準備・予習と復習	90
8	Conversation3	Around the city（町でできることについて話す）	小テスト準備・予習と復習	90
9	Focus3	What's a nice place to see the fall leaves?（おすすめの場所を伝える）	小テスト準備・予習と復習	90
10	Conversation4	Today（今日あったことについて話す）	小テスト準備・予習と復習	90
11	Conversation5	Your Day（一日について話す）	小テスト準備・予習と復習	90
12	Situation3	Chatting with Fellow Travelers（旅先でちょっとした会話をする）	小テスト準備・予習と復習	90
13	Situation4	Making Small Talk on an Airplane（機内での会話）	小テスト準備・予習と復習	90
14	プレゼンテーション準備	指定のテーマについてのプレゼンテーションの準備をする。	発表準備	90
15	プレゼンテーション	指定のテーマについてのプレゼンテーションを行う。	発表振り返り	90

《専門教育科目》

科目名	教育・保育の計画と評価			科目ナンバリング	C1011SGG042
担当者氏名	三宅 美由紀			担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2	・ 必	開講年次・開講期
					1 年 ・ I 期

《授業の概要》

教育課程や全体的な計画、指導計画の作成について、その意義を十分に理解し、理論と実践をつなぐことができるように、基本的な知識を修得する。保育に対する基本を理解した上で、子どもの主体性を尊重する指導計画の作成について理解することを目的とする。さらに、保育をめぐる今日的課題をいろいろな方法で察知し、子どもや保育に関する様々な専門的知識を修得し保育の実践力を養う。

《テキスト》

『教育課程・保育の計画と評価』

著者 岩崎淳子、及川留美、粕谷亘正 2021年4月 萌文書林

《参考図書》

『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 『保育所保育指針解説』 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府 文部科学省 厚生労働省

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	2-1 自ら課題を発見しようとする力	教育課程・全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解している。
○	3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	主体的・創造的に自らの保育活動を計画・実施・評価・改善しようとする姿勢をもつ。
◎	3-2 自らの実践を振り返り、自己を高めようとする力	社会的背景を理解し、子供の発達や身体の状態に応じて、抱える課題を理解し、適切な指導を行うことができる。

《授業外学習》

○次回の授業範囲を予習しておくこと。特にテキストをよく読んでおくこと。
○適宜課題を出すので、その課題について深く考えたり調べたりしてまとめること。

《学習状況・理解度の確認》

・課題などの提出物は、コメントを付して返却する。
・毎授業の終わりに学んだことをまとめて提出する。授業内容の理解度を確認し、次回の授業に反映させる。

《備考》

・幼稚園、保育所、認定こども園に関する情報を、意識的に収集すること。
・授業内で、グループワークを行いまとめを発表する。
此者は、国巨経験のホフ生が経験者です。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	50
小テスト	0
レポート	40
発表・実技	10
授業内課題	0
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	授業の目的、内容、方法、評価について知る。保育とは何かについて考え、幼児時代を振り返ることで、授業への興味、関心、意欲をもつ。	テキスト p. 8～18通読	45
2	保育の基本について	幼稚園や保育所等における保育と小学校における教育の違いについて学ぶ。	テキスト p. 19～36通読	45
3	教育課程・全体的な計画と指導計画(1)	幼稚園の指導計画、保育所、幼保連携型認定こども園における全体的な計画とは何かを学ぶ。	教育課程、保育課程を調べる	60
4	教育課程・全体的な計画と指導計画(2)	指導計画について基本的な考え方を理解する。	テキスト p. 37～46通読	45
5	幼稚園の理解	幼稚園教育要領の内容に沿って、幼稚園の役割や幼稚園教育の基本について学ぶ。	テキスト p. 47～65通読	45
6	幼稚園における教育課程と指導計画の実際	幼稚園の指導計画がどのような考えのもとに作成されているかを理解する。	テキスト p. 67～79通読	45
7	保育所の理解	保育所保育指針の内容に沿って、保育所の役割や保育所保育の基本について学ぶ。	テキスト p. 80～99通読	45
8	保育所における全体的な計画と保育の実際	指導計画がどのような考えのもとに作成されているかを理解する。	テキスト p. 100～128通読	45
9	指導計画の作成の基本とその方法(1)	指導計画における記載項目やその内容、作成手順の基本について理解する。	さまざまな指導計画を収集	60
10	指導計画の作成の基本とその方法(2)	指導計画におけるそれぞれの項目、その書き方についてグループワークを行う。	テキスト p. 129～136通読	45
11	幼稚園、保育所の部分指導計画	幼稚園、保育所の部分指導計画の作成について学ぶ。	テキスト p. 137～144通読	75
12	乳児、1・2歳児の特徴と指導計画	0歳、1歳、2歳児の特徴を理解し、子どもの姿を捉え、指導計画のねらい、内容を作成する。(グループワーク)	テキスト p. 145～152通読	45
13	幼児の特徴と指導計画	3歳、4歳、5歳児の特徴を理解し、子どもの姿を捉え、指導計画のねらい、内容を作成する。(グループワーク)	テキスト p. 154～177通読	45
14	保育の実践と評価	保育実践を振り返ることが、保育の質の向上につながることを理解し、幼稚園、保育所の全日の指導計画を作成する。(グループワーク)	これまでの授業内容の整理	60
15	学修のまとめ	これまでの内容の振り返り全体講評(質疑応答を含む)を行う。	授業内容のまとめ	60

《専門教育科目》

科目名	教育原理	科目ナンバリング	C1021SGG021
担当者氏名	三浦 摩美	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 必
		開講年次・開講期	2 年 ・ I 期

《授業の概要》

教育の本質、意義や役割、教育思想と教授論の歴史的展開等について学ぶと共に、現代社会の変化に対応した教育課題や子ども・家庭・地域を取り巻く教育・幼児教育の現状と課題、これからの方向性について理解し考えることで、教育について広い視点から洞察する力を身につけることができるようにする。

《授業外学習》

教科書やプリントを通読すると共にノートの整理をし、予習や復習に取り組む。平常の課題では、参考資料に目を通し、教科書やノートから理解した知識や要点を整理・考察してまとめることができるように取り組む。また、学期末考査に向けて、教科書やノート他の内容が理解できるように自己学習に取り組み、準備する。

《テキスト》

公益財団法人児童育成協会監修、矢藤誠慈郎・北野幸子編集『新基本保育シリーズ2 教育原理』中央法規出版、2020年、初版第2刷。

《学習状況・理解度の確認》

毎週のManabaへの課題提出(授業内学習)と学期末に行う考査を通して学習状況と理解度を確認する。

《参考図書》

適時紹介する。

《備考》

毎週の学習内容要点のManabaへの提出をもって最終的に出席を確定します。出席と平常の取り組みを重視して授業に臨んで下さい。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	1-1 多様な他者を理解しようとする力	多様な教育観・子ども観や教育思想が理解でき、自らの教育観・子ども観、実践観に応用できる。
◎	2-1 自ら課題を発見しようとする力	教育の歴史や現代社会にある教育課題に目を向け、事象への洞察力を鍛える。
○	3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	教育に関する専門的な知識を獲得することで、自らの生活やこれからの職業人生に向けた土壌作りにつなげる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	55
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	45
その他(0)	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	教育の意義を理解する	教育の人間形成に及ぼす作用を理解し、人格形成に関する陶冶論や生物学的人間学の成果を通して教育の必要性とその根拠を把握する	教科書通読pp2-9	45
2	教育原理の意義と幼児教育	学習者と学びを支える「教育」の原理、幼児教育における「保育」と「教育」、そして「養護」の理念について理解する	教科書pp10-12	45
3	教育の目的と教育法規	教育の目的と目標、教育目的の普遍性と可変性、教育法規に示されている教育目的と巨視的に見た教育実践の関係	教科書pp14-20	45
4	教育目的の歴史の変遷	西欧古代・中世・近代の教育目的と日本近現代の教育目的を学び、人類の教育活動が意図的・体系的な人間形成活動であることを理解する	教科書pp20-23	45
5	幼児期の教育特性	乳幼児期の発達を支援する教育、環境を通して行う教育、幼児教育で育む「資質・能力」、育ちを捉える視点と育成課題を再確認する	教科書pp26-35	45
6	人間形成と家庭・地域社会	地域・家庭・子どもを取り巻く社会システム、家庭と地域の関係の歴史的变化を理解し、現在社会の教育について考える	教科書pp50-55	90
7	教育資源である家庭と地域	教育資源としての地域や家庭の保護者という観点について理解すると共に、地域のなかでの子育て支援のあり方について考える	教科書pp56-60	45
8	諸外国の教育思想	西欧のコメニウス、ルソー、フレーベル、ペスタロッチの近代教育思想について学ぶ	教科書pp62-72	45
9	西欧の子ども観の歴史の変遷と幼児教育の発展	西欧中世から近世、近代的な子ども観の登場の歴史の変遷と幼児教育の整備と発展について学ぶ	教科書pp100-101, pp82-83	60
10	西欧近現代に発展した教育学説と教育実践	近代から現代にかけて発展した教育思想、教育学説と教育実践について学ぶ	教科書pp102-105, pp158-165	60
11	日本の教育思想と歴史	江戸期から明治期、そして現代社会の変化と教育の特徴的な変遷について学ぶ	教科書pp86-89, pp94-95	60
12	日本の子ども観の歴史の変遷と幼児教育の整備と発展	中世から近世の子ども観・子どもの姿と近代教育のもとでの子ども観、近代教育の整備と発展と幼児教育	教科書pp. 98-100, pp. 106-107	60
13	生涯学習社会の定義と施策	生涯学習社会の概念の定義と国内外の取り組みの現状、今後の教育政策の方向性について学ぶ。身近な取組について調べる	教科書pp170-177	90
14	学校及び学級経営の視点と保育・幼児教育の課題	学校経営や学級経営の仕組みや観点について学ぶと共に日本における幼児教育の課題について考える	pp128-, pp140-, pp178-,	60
15	学習のまとめ	全体のまとめと考査および問題についての説明	教科書・ノート・資料の自学	120

《専門教育科目》

科目名	教育実習	科目ナンバリング	C1011SYZ027
担当者氏名	三宅 美由紀	担当形態	複担
授業方法	実習	単位・必選	5 ・ 選
		開講年次・開講期	2年 ・ 通年(I期)

《授業の概要》

教育実習の授業は、習得した教科全体の知識、技術を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、幼児に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟することを目的とする。保育の概要を理解した上で、記録の取り方や指導案の立案、並びに子どもとの接し方などを模擬保育、また附属加古川幼稚園見学観察実習を通して、体験的な学びをし、保育技術や実践力を身に付ける。

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』
『幼稚園教育実習』 大方美香・滝川光治 他（編）2020年9月 建帛社

《参考図書》

適宜授業中に紹介する。

《授業外学習》

適宜、課題を出します。その課題に取り組み期日に提出をする。事前指導には、絵本、歌などの教材研究を行いファイリングすること。子どもの発達について知識を深め、子ども理解と保育者の援助につなげる。

《学習状況・理解度の確認》

レポートなどの提出物は、具体的にコメントを付して返却する。分からないことは、毎授業終了時などで質問を受ける。

《備考》

実習スケジュールについては、オリエンテーション時に配布します。科目担当者は、園長経験のある実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
○ 3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	幼稚園教育要領、子どもの姿を踏まえた適切な指導案が立案できるようにするとともに、保育技術の習得を図る。
◎ 3-2 自らの実践を振り返り、自己を高めようとする力	実習園の特色や保育目標・方針などを理解し、実習に臨む。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	10
授業内課題	20
その他()	70
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	幼稚園実習について(1)	教育実習の心得(1) 目的と意義	テキストp.2~p.31通読	45
2	幼稚園実習について(2)	教育実習の心得(2) 事前準備と心得	テキストp.34~p.60通読	60
3	事前指導(1)	観察実習について	テキストp.62~p.79通読	60
4	事前指導(2)	DVDを通して幼稚園現場を知る(グループワーク)	テキストp.46~p.60通読	60
5	事前指導(3)	参加実習について	テキストp.82~p.108通読	60
6	事前指導(4)	自身の課題に向けて指導案の書き方	発達段階について調べる	60
7	事前指導(5)	部分実習について	テキストp.110~p.134通読	60
8	事前指導(6)	全日実習について	日誌の書き方をまとめる	60
9	事前指導(7)	指導案作成と実際(1) (グループワーク) 子どもの発達を理解する	指導案作成	60
10	事前指導(8)	指導案作成と実際(2) (グループワーク) 子どもの発達を理解する	指導案作成	60
11		以下5回はⅡ期に行う		60
12				60
13				60
14				60
15				60

《専門教育科目》

科目名	教育実習	科目ナンバリング	C1011SYZ027
担当者氏名	三宅 美由紀	担当形態	複担
授業方法	実習	単位・必選	5 ・ 選
		開講年次・開講期	2年 ・ 通年(Ⅱ期)

《授業の概要》

教育実習の授業は、習得した教科全体の知識、技術を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、幼児に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟することを目的とする。保育の概要を理解した上で、記録の取り方や指導案の立案、並びに子どもとの接し方などを模擬保育、また附属加古川幼稚園見学観察実習を通して、体験的な学びをし、保育技術や実践力を身に付ける。

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』
『幼稚園教育実習』 大方美香・滝川光治 他(編) 2020年9月 建帛社

《参考図書》

適宜授業中に紹介する。

《授業外学習》

適宜、課題を出します。その課題に取り組み期日に提出をする。事前指導には、絵本、歌などの教材研究を行いファイリングすること。子どもの発達について知識を深め、子ども理解と保育者の援助につなげる。

《学習状況・理解度の確認》

レポートなどの提出物は、具体的にコメントを付して返却する。分からないことは、毎授業終了時などで質問を受ける。

《備考》

実習スケジュールについては、オリエンテーション時に配布します。科目担当者は、園長経験のある実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
○ 3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	指導計画の意義を理解し、立案できるようにするとともに、保育技術の習得を図る。
◎ 3-2 自らの実践を振り返り、自己を高めようとする力	実習園の特色や保育方針などを理解し、実習に臨む。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	10
授業内課題	20
その他(実習の評価)	70
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	事前指導(9)	実習について学んだことをまとめる	絵本の読み聞かせ	60
2	事前指導(10)	実習に係る事前指導	絵本の読み聞かせ ピアノ練習	60
3	事後指導(1)	実習の自己評価 実習の振り返り(グループワーク)	自己の課題	60
4	事後指導(2)	実習の振り返りのまとめ発表(1) 自己の課題に向けて	自己の課題	60
5	事後指導(3) 学修のまとめ	実習の振り返りのまとめ発表(2) 自己の課題に向けて	自己の課題	60
6		以下10回はⅠ期に行う		60
7				60
8				60
9				60
10				60
11				60
12				60
13				60
14				60
15				60

《専門教育科目》

科目名	教育心理学			科目ナンバリング	C1021SYZ037
担当者氏名	松田 信樹			担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2	・ 選	開講年次・開講期 2年 ・ I期

《授業の概要》

人は生まれてから実にたくさんのかんことを身につけて発達していく。それを可能にするのが広い意味での教育である。人の人としての発達を支える教育という営みについて、心理学の観点から考える。

《授業外学習》

参考図書として挙げた文献を読むなどして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深めてもらいたい。毎回の授業で配布するプリントとテキストの該当箇所を振り返り、授業で扱った重要語句の意味について理解すること。

《テキスト》

『育ちと学びの心理学』 松田信樹（著）あいり出版 2018
（こどもの心理学 I で使用するテキスト同著）

《学習状況・理解度の確認》

質問等には、授業終了後やオフィスアワーに対応する。

《参考図書》

『やさしい教育心理学[第3版]』 鎌原雅彦・竹網誠一郎(著)
有斐閣 2012

《備考》

「先生」と呼ばれる専門職を目指していることを心得て、授業に臨むこと。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-3子どもと環境の関係を理解する力	子どもの発達が環境との関わりの中で進むことを理解することができる
○	1-1子どもの発達を理解する力	子どもの発達に関わる教育心理学の基礎的事項を理解すること
○	1-2子どもの心身の状態を把握する力	子どもの心の発達の流れを理解したうえで、子どもの心の動きを受け止める態度を身につける

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	40
小テスト	60
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	0
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	教育心理学への導入	教育心理学では何を学ぶのか、そして幼稚園教諭を目指す者が教育心理学を学ぶ意義について説明する。	教科書とプリントを用いて復習	60
2	学習の心理学～その1	学習を定義づけたうえで、学習を成立させるメカニズムについて学ぶ。	教科書とプリントを用いて復習	60
3	学習の心理学～その2	子どもを褒める、そして子どもを叱るということについて、学習の心理学の視点から考える。	教科書とプリントを用いて復習	60
4	学習の心理学～その3	認知の変化としての学習、感覚運動学習について学ぶ。	教科書とプリントを用いて復習	60
5	学習への動機づけ～その1	動機づけについて、内発的動機づけをキーワードにして学ぶ。	教科書とプリントを用いて復習	60
6	学習への動機づけ～その2	学習意欲を高める、あるいは逆に低下させてしまう諸条件について学び、学習意欲を高める方策を探る。	教科書とプリントを用いて復習	60
7	記憶の心理学～その1	忘却とそのメカニズム、短期記憶と長期記憶について簡単な記憶実験を交えながら学ぶ。	教科書とプリントを用いて復習	60
8	中間テストの実施と解説	学習、動機づけ、記憶について学んだことの習熟度を確認するために中間テストを実施する。	教科書とプリントを用いて復習	60
9	記憶の心理学～その2	効果的な記銘の仕方と子ども時代の記憶の発達について学ぶ。	教科書とプリントを用いて復習	60
10	学習の方法と評価	学習指導の諸形態と学習評価のあり方について学ぶ。	教科書とプリントを用いて復習	60
11	学級集団の理解～その1	教師と児童・生徒との関係について学ぶ。	教科書とプリントを用いて復習	60
12	学級集団の理解～その2	学級内の人間関係について学ぶ。	教科書とプリントを用いて復習	60
13	社会的状況と学習	社会的状況が学習活動に与える影響について学ぶ。	教科書とプリントを用いて復習	60
14	障がいをかかえる子どもの発達と学習	発達障がいをはじめとする障がいをもつ子どもたちの発達と学習の過程について学ぶ。	教科書とプリントを用いて復習	60
15	学期末テストの実施と解説	記憶、学習方法と評価、学級集団内の人間関係、発達障がいについて学んだことの習熟度を確認するために学期末テストを実施する。	学習内容の総復習	120

《専門教育科目》

科目名	教育制度論	科目ナンバリング	C1021SYZ040
担当者氏名	水森 ゆりか	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選
		開講年次・開講期	2 年 ・ I 期

《授業の概要》

現代公教育の「制度」（学校制度、教育法制など）及び「制度実態」（教育行政、学校経営など）についての体系的な知識を獲得するとともに、近年の教育政策の動向を検討しながら、現代公教育制度をめぐる諸課題を理解し（「学校と地域との連携」「学校安全への対応」に関する理解を含む）、それらの課題を主体的に考究する力が身に付くよう、授業を進める。

《授業外学習》

予習として事前配布プリントを読んでおくこと。毎回の授業後に復習をし、専門用語の意味等をノートに整理しておくこと。日頃から新聞やニュースをチェックし、教育制度の動向に関心を持つようにすること。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回プリントを配布する。

《学習状況・理解度の確認》

レポートについては、評価を付して返却するとともに、授業中に全体講評を行う。質問については、授業中に配布するコメントシートを活用してください。

《参考図書》

河野和清編『現代教育の制度と行政（改訂版）』福村出版、2017年
坂田仰他『新訂第3版 図解・表解 教育法規』教育開発研究会、2017年

《備考》

グループワークを行い、その成果をレポートにまとめる回がある。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	現代公教育の制度的枠組み（学校制度、教育法制など）について説明することができる。
	現代公教育の制度的運用（教育行政、学校経営など）について説明することができる。
○ 2-2 自ら課題を解決しようとする力	近年の教育政策の動向を理解し、今後の課題について主体的に考究することができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	0
レポート	40
発表・実技	0
授業内課題	0
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	現代教育の諸問題	①学校教育をめぐる問題、②家庭教育をめぐる問題、③教育問題の背景（「グループ討論」の時間を設ける。）	事前配布プリントの通読	45
2	現代の公教育制度(1)	①公教育の概念と構成原理、②学校制度の成立・展開、構造・概要	事前配布プリントの通読	60
3	現代の公教育制度(2)	①現代日本の学校制度、②公教育制度の今日的課題	事前配布プリントの通読	60
4	教育法制	①教育法規の構造、②教育基本法、③教育権の種類・構造、④教育法制の特色	事前配布プリントの通読	60
5	教育行政	①教育行政の概念、②文部科学省、③教育委員会制度	事前配布プリントの通読	60
6	学校経営と学校評価	①学校経営の概念・領域、組織・過程、②学校評価の実態・課題	事前配布プリントの通読	60
7	教職員の職務・サービス前半のまとめ	①教職員の職務・サービス、②教職員の懲戒・分限、③教職員評価、④前半のまとめの試験	事前配布プリントの通読	60
8	就学前教育制度(1)	①小学校就学前教育の歩み、②幼稚園教育制度	事前配布プリントの通読	60
9	就学前教育制度(2)	①保育所保育制度、②認定こども園教育・保育制度	事前配布プリントの通読	60
10	教員養成・研修制度	①教職の性格、②教員養成、③教員研修	事前配布プリントの通読	60
11	現代日本の教育改革(1)	①近年の教育政策の動向、②教育改革における主要な論点（「グループ討論」の時間を設ける。）	事前配布プリントの通読	60
12	現代日本の教育改革(2)	①諸外国の教育改革の動向、②現代日本の教育政策の課題（「グループ討論」の時間を設ける。）	事前配布プリントの通読	60
13	学校と地域の連携	①地域との連携による学校教育活動、②「開かれた学校づくり」	事前配布プリントの通読	60
14	学校安全への対応	①学校保健安全法、②危機管理と事故対応、③「学校安全」上の課題	事前配布プリントの通読	60
15	まとめ	①学習の振り返り（試験を含む）、②全体講評（質疑応答を含む）	これまでの授業内容の整理	120

《専門教育科目》

科目名	教育相談	科目ナンバリング	C1022SYh055
担当者氏名	足立 法子	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選
		開講年次・開講期	2 年 ・ II 期

《授業の概要》

対人援助職を目指す者として必須となる事項の理解と専門職としての技術を用いた対応を学ぶ。

1. 基本的なカウンセリングの理論など、基礎知識を身につける。
2. 子どもの発達状況、心理的特質等に即した関わりがもてるようになる。
3. 保育・教育相談の現場においてよくある相談や事例について、専門性を活かした対応ができるよう、実践的な力を養う。

《テキスト》

新時代の保育双書「子どもの理解と保育・教育相談 [第2版]」
小田豊・秋田喜代美編 2021 株式会社みらい

《参考図書》

必要に応じて参考文献を紹介する。

《授業外学習》

- ・授業中に配布する資料を整理し、熟読する。
- ・実習などで出会った子どもたちをよく観察し、授業内容に照らし合わせて、理解と対応を考えること。
- ・授業中に検討する事例について、対応については答えが1つと限られないこともある。他者との議論に積極的に参加すること。

《学習状況・理解度の確認》

授業ごとの提出物、レポート、考査を実施する。

《備考》

講義開始時に出席確認をする。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	1-1 多様な他者を理解しようとする力	心理学の知識を用いて、子どもや保護者を理解し、その対応方法を身につける。
◎	2-1 自ら課題を発見しようとする力	教育現場で生じる様々な問題行動の意味を考え、理解することができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法 (%)	
試験	60
小テスト	0
レポート	20
発表・実技	10
授業内課題	10
その他 ()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	ガイダンス	授業の実施方法の確認をする。保育の場における相談ニーズの解説を聞き、その役割を理解する。	テキスト p. 10～p. 17	45
2	子どもの発達理解と相談・支援①	乳児期の子どもの発達について理解し、事例検討によって子どもへのかかわり方を学ぶ。	テキスト p. 18～p. 30	45
3	子どもの発達理解と相談・支援②	幼児期・学童期の子どもの発達について理解し、事例検討によって子どもへのかかわり方を学ぶ。	事例の対応方法等の検討	45
4	保護者への対応	子育てにおける悩み、保育者の役割について学び、保護者に対する発達支援とはどのようなことかを理解する。	テキスト p. 32～p. 38	45
5	支援を要する子どもとその保護者への対応	発達障害をはじめとする個別のニーズを有する子どもとその保護者への対応について学ぶ。	テキスト p. 47～p. 52	45
6	子ども理解のための発達理論	子ども理解のための子どもの発達理論とアセスメントについて学ぶ。	テキスト p. 61～p. 66	45
7	カウンセリング的アプローチ	カウンセリングの基礎理論について解説を聞き、体験学習によって理解する。	テキスト p. 67～p. 70	45
8	教育相談に活かすカウンセリングの基本	「傾聴の姿勢」とはなにかを知り、演習によって理解する。	テキスト p. 72～p. 76	45
9	カウンセリング技法	「カウンセリング技法」とはなにかを知り、演習によって理解する。	テキスト p. 77～p. 80	45
10	保育コンサルテーション、地域資源の活用と連携	保育におけるコンサルテーションについて事例をもとに学ぶ。人的・社会資源について学び、多職種連携による支援活動への理解を深める。	テキスト p. 86～p. 91	45
11	事例検討による学習①	6種類から2事例を選択し、グループごとに事例検討をする。発表にむけて準備をする。	検討内容のまとめ、発表準備	60
12	事例検討による学習②	保育場面において、子どもへの支援をテーマとし、事例検討の内容を発表し、議論をする。	事例検討での学びをまとめる。	60
13	事例検討による学習③	保育場面や子育てにおける保護者への支援をテーマとし、事例検討の内容を発表し、議論をする。	事例検討での学びをまとめる。	60
14	学習のまとめ	これまでの学習内容をまとめ、教育相談における保育者の専門性について確認をする。	配布資料等の整理	45
15	学習の振り返り	学修のまとめを行い、学んだ内容を振り返る。	学習内容の復習	120

《専門教育科目》

科目名	教師・保育者論	科目ナンバリング	C1012SGG041
担当者氏名	三宅 美由紀	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 必
		開講年次・開講期	1 年 ・ II 期

《授業の概要》

学生が目指す保育者像を明確にし、その実現のために必要な学習課程を計画する。また、保育に関する知識を深める。I 期に学んだ理論や実習からの学びを通して、チーム学校運営の一翼を担う保育者としての資質の向上と実践の省察、評価の大切さを知る。さらに、学生自身の人生経験を振り返らせ、その結果を今後の進路選択に活用するなど、自らの望ましい保育者像を構想する。

《テキスト》

『今に生きる保育者論』第4版
 秋田 喜代美（編集代表） 西山 薫・菱田 隆昭（編集）
 2020年3月

《参考図書》

『幼稚園教育要領解説』 『保育所保育指針解説』
 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』
 その他授業中に随時紹介

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
○ 1-1 多様な他者を理解しようとする力	教職の意義と保育者の役割を理解し、望ましい保育者像を形成することの意義を理解する。
◎ 3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	保育者に対する自らの適正を探求し、保育実践者としての意欲を高めることができる。

《授業外学習》

- 次回の授業範囲を予習しておく。
- 出題課題について、調べたりまとめたりしておく。
- 授業で学んだことを振り返り、ノート等にまとめておく。

《学習状況・理解度の確認》

課題などの提出物は、コメントを付して返却する。
 授業の終わりに、学んだことをまとめ提出する。

《備考》

- ・ 保育所、幼稚園、認定こども園などに関する情報を常に意識して収集しておく。
- ・ 授業は同時双方向型のオンラインで行う。
加筆者は、国員経験のキャリア実務経験者です。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法 (%)	
試験	50
小テスト	0
レポート	30
発表・実技	20
授業内課題	0
その他 ()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	授業の進め方・評価方法などのガイダンスを行う。現時点で、めざす保育者像をまとめる。	テキストp. 13～p. 22を通読	45
2	保育者への扉	保育者になるためにはどのような経験と資質が必要なのか、先輩保育者の経験を通して、保育者になっていく道の地図を描いてみる。	テキストp. 23～41を通読	60
3	保育者の仕事と役割	幼稚園教諭、保育士、保育教諭、児童福祉施設の保育士などの仕事や役割職務内容について学ぶ。(グループワーク)	テキストp. 42～p. 61を通読	60
4	保育者の制度的位置づけ	保育者について、その法的根拠を知り、保育者の役割や職務内容、義務などを理解する。	テキストp. 62～p. 86を通読	60
5	保育者に求められる資質	保育者と他の仕事の違いを知り、保育者に求められる資質、能力や資質向上のための取り組みについて知る。	テキストp. 87～p. 104を通読	60
6	職場で学びあう専門家	地域における教育・保育機関としての役割を認識し、専門家としての連携・協働、保育を高めるための意識・態度について理解する。	これまでの授業内容の整理	75
7	同僚性について	同僚性について、事例よりグループワークを行う。	テキストp. 105～p. 115を通読	60
8	保育者の資質向上とキャリア	専門性を高めるための取り組みや、研修について知る。	テキストp. 116～p. 125を通読	60
9	子どもの育ちの危機と子育て支援 (1)	今の子どもの育ちの課題を整理し、家庭や地域社会でどのような子育てが必要なのかを学ぶ。	テキストp. 125～p. 136を通読	60
10	子どもの育ちの危機と子育て支援 (2)	社会全体で子育て支援をしていく仕組みの重要性と園での子育て支援の役割について学ぶ。	テキストp. 137～p. 150を通読	60
11	現代社会の変化と保育者の仕事や課題	保育者が担うべき仕事(課題)を増やし、その内容を拡大させつつある現代社会の変化について学ぶ。(グループワーク)	テキストp. 151～p. 166を通読	60
12	日本の保育者のあゆみ	保育所や幼稚園の発展に力を尽くした保育者、教育者の思想と実践について理解する。	テキストp. 167～p. 188を通読	60
13	資料に見る保育者の姿	国内外の資料から、保育者に求められる役割の変化、保育者として働いている人たちの働き方、海外の保育制度等を知る。	テキストp. 189～p. 214を通読	60
14	保育者になる人へのメッセージ	先輩の生の声を通して、生活経験、人とのかかわり、自分磨き等保育に関する専門的学習の基本について幅広く深く学ぶ。	これまでの授業内容の整理	75
15	学修のまとめ	これまでの学修内容と得られた知見、その成果をまとめる。	授業内容のまとめ	60

《専門教育科目》

科目名	健康・スポーツ科学 I (講義)			科目ナンバリング	C1012L◆●009
担当者氏名	三宅 一郎			担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2	・ 選	開講年次・開講期
					1 年 ・ II 期

《授業の概要》

体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進める。
 体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《授業外学習》

＜予習方法＞
 下記の授業計画における次時の授業内容をあらかじめ参考文献等で確認しておくことでより理解が深まる。
 ＜復習方法＞
 学んだ内容を配付資料等で再確認することによって今後の自己の健康管理に生かして欲しい。

《テキスト》

テキストは使用しない。
 毎時間プリントを配布する。

《学習状況・理解度の確認》

課題に対して、毎時間ミニレポートを提出する。その際に質問等も受け付け、次時間に再説明し理解を確認する。

《参考図書》

『健康・スポーツ科学入門』出村真一他(大修館書店)、『体力を考える。その定義・測定と応用』宮下充正著(杏林書院)、『運動発達の科学・幼児の運動発達を考える』三宅一郎(大阪教育図書)

《備考》

この授業を受講することによって、自分自身の健康づくりや体力づくりを再確認すると共に、今後の自己の健康管理に役立ててもらいたい。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	2-1 多様な見方や考え方ができる力	多方面から生活を見直し、改善しようとする能力を習得する。
◎	2-4 運動や健康について理解する力	運動や健康の理論を理解し、正しい健康・体力づくりが実践できる能力を習得する。
○	2-5 主体的に問題を設定し考える力	日常における自身の健康管理を考える能力を養う。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	20
発表・実技	0
授業内課題	70
その他(受講態度等)	10
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	授業オリエンテーション	授業の進め方や方法・評価方法・その他注意事項等について	学びたい内容	45
2	体力の考え方と構造	体力とは何か？体力の分類等の考え方とその構造について学ぶ	学習した内容確認と課題発見	45
3	体力の測定と評価	体力の測定方法と評価の意義について学ぶ。さらに測定結果の活用方法についても併せて学ぶ。	学習した内容確認と課題発見	45
4	体力の加齢変化と性差	発育発達と体力。また加齢による体力の変化について学ぶ。	学習した内容確認と課題発見	45
5	運動生理学の基礎	運動生理学の基礎知識を学ぶ。	学習した内容確認と課題発見	45
6	バイオメカニクスの基礎	バイオメカニクスの基礎意識を学ぶ。	学習した内容確認と課題発見	45
7	運動栄養学の基礎	運動栄養学の基礎知識を学ぶ。	学習した内容確認と課題発見	45
8	トレーニング論の基礎	トレーニングの種類と実施方法等を学ぶ。	学習した内容確認と課題発見	45
9	健康の考え方	様々な健康の捉え方や考え方について学ぶ。	学習した内容確認と課題発見	45
10	健康づくりと運動処方	健康づくりに必要な運動処方の考え方について学ぶ。	学習した内容確認と課題発見	45
11	健康づくりと運動実践	健康づくりの為の運動実践を考えると共に実践の仕方を学ぶ。	学習した内容確認と課題発見	45
12	健康と体力の関係	健康と体力の関係について学び、必要な体力づくり等を学ぶ。	学習した内容確認と課題発見	45
13	今後の健康づくりについて考える①	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する(その1)。	学習した内容確認と今後の展開	45
14	今後の健康づくりについて考える②	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する(その2)。	学習した内容確認と今後の展開	45
15	まとめ	学んだ内容の確認と評価	学習した内容確認と今後の展開	45

《専門教育科目》

科目名	子ども理解の理論と方法			科目ナンバリング	C1021SYH036
担当者氏名	稲葉 小由紀			担当形態	クラス分け
授業方法	演習	単位・必選	1	・ 選	開講年次・開講期 2年・I期

《授業の概要》

乳幼児期の子どもから青年期の子どもたちが、大人をはじめとする周囲の環境との関わりの中で、どの様に発達していくのかを学ぶ。子どもの成長のプロセスを、人間関係やコミュニケーション、そして認知など様々な側面から学ぶ。また、観察と記録の意義や目的に応じた観察法などの基礎的事項を学び、個と集団の関係をとらえたいうえで、集団保育の計画を立てるための基礎理論を学ぶ。保護者の心情に寄り添う態度と基礎的な対応の方法を学ぶ。

《テキスト》

『やさしく学ぶ保育の心理学』 浜崎隆司、田村隆宏、湯地宏樹 (編) ナカニシヤ出版 2016

《参考図書》

『はじめて学ぶ乳幼児の心理—こころの育ちと発達の支援』 桜井茂男 (編) 有斐閣 2006
『保育の心理学』 長谷部比呂美 他著 ななみ書房 2021

《授業外学習》

参考図書として挙げた文献などを自ら進んで読むことを通じて、授業内容について理解を深めましょう。また、ボランティア体験を通して、子どもと接する機会を積極的に増やしてください。

《学習状況・理解度の確認》

授業内で課題を行い、その解説を翌授業日に行う。

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておきましょう。質の高い保育者になることを志す学生の受講を期待します。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	子どもの発達について、人間関係や言語そして知力など様々な角度から捉えられるようになる。
○	1-1 多様な他者を理解しようとする力	特別な支援が必要な子どもたちへの支援の重要性について理解し、基本的な支援について学ぶ。
○	3-2 自らの実践を振り返り、自己を高めようとする力	子どもの発達にとって大人をはじめとする周囲の環境との関わりがなぜ重要なのかを理解できるようになる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法 (%)	
試験	60
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	40
その他 ()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	乳幼児及び児童心理学の概要 子ども理解の意義	乳幼児及び児童心理学の概要について理解する。子ども理解の意義について理解を深める。	学修のまとめのプリント	45
2	幼児理解と発達の原理	発達と学びの原理を理解し、幼児理解を集団保育と個別支援に活用する大切さを理解する。	学修のまとめのプリント	45
3	大脳生理の基礎的事項/感覚・知覚・認知	中枢神経系の発達や大脳機能の局在など大脳生理の基礎的事項、また、感覚・知覚・認知の概要について理解する。	学修のまとめのプリント	45
4	認知・思考および言語の発達	ピアジェの認知発達理論について学び、認知・思考の発達過程についての理解を深める。象徴機能の発達と言語の発達について理解を深める。	テキストp.54～p.63の精読	45
5	人格の発達①自我の発達	乳幼児期の自我の発達について理解を深める。親子間の愛着形成、遊びや寝などの関係について理解を深める。	テキストp.64～p.73の精読	45
6	人格の発達②欲求不満と適応行動	欲求や葛藤について学び、適応行動と不適応行動についての理解を深める。また、欲求不満体制に配慮した保育を考える。	学修のまとめのプリント	45
7	人格の発達③発達と環境	様々な人格理論を学んだうえで、文化的背景や親の養育態度などの環境について学ぶ。	テキストp.102～p.119の精読	45
8	人格の発達④青年期の発達課題	児童養護施設の事例や、職業選択、保育者養成校での学びなど、自己の内省を通して、青年期の発達課題と人格の成熟について考える。	テキストp.74～p.83の精読	45
9	人格の発達⑤心の問題	子どもの各発達段階ごとに生じやすい心理的な問題について学び、子ども理解を深める。	学修のまとめのプリント	45
10	観察法と記録	子ども理解のための観察の意義や目的、目的に合わせた観察法などを理解する。	テキストp.11～p.14の精読	45
11	知能と知能検査	知能の概要と知能検査の概要について知り、その活用方法について理解を深める。	学修のまとめのプリント	45
12	集団保育と個別支援	個別の子どもと集団との関係をとらえる意義を理解し、方法について理解を深める。	学修のまとめのプリント	45
13	子どもの発達支援と集団保育	子どもの発達の課題をクラスの子どもなど集団の関係からとらえて、解決の方法を考えることができる。	学修のまとめのプリント	45
14	保護者支援	保護者の心理的諸問題について理解を深めるとともに、基礎的な対応方法について理解を深める。	テキストp.135～p.137	60
15	学修のまとめ	1～14講の学修内容についての理解度を評価するため学修の振り返りを行い、その後の解説により理解を深める。	学修のまとめのプリント	60

《専門教育科目》

科目名	特別支援教育A	科目ナンバリング	C1012SZH053
担当者氏名	足立 法子	担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1 ・ 選
		開講年次・開講期	1 年 ・ II 期

《授業の概要》

障害児保育・教育の歴史の変遷、障害特性や個別のニーズに合わせた配慮や教育の方法について学ぶ。大人との1対1の関係や子どもたちがともに育つことへの視点をもった保育とはどのようなものであるのか、具体的な内容について知識を得ることとともに事例を通して理解をする。他機関との連携や家庭への支援・連携、保育にかかわる協働についても学び、子どもをともに育てることへの意義と方法を理解する。

《授業外学習》

障害児保育への興味をもち、授業中に紹介した文献や障害児に関わる新聞報道へ注目するなど、授業中にとりあげたテーマについて理解を深める努力をしてください。

《テキスト》

- 『インクルーシブ保育論 第2版』伊丹昌一編著、ミネルヴァ書房、2022
- 『新版キーワードブック特別支援教育』玉村公二彦ら編、クリエイティブ・エデュケーション、2019

《参考図書》

必要に応じて、参考文献を紹介する。

《学習状況・理解度の確認》

感想レポートやレポートなどの課題を課し、学習内容についての確認を行います。考えたことを互いに発表しあい、障害児保育についての理解を深める機会を設けます。

《備考》

見学やボランティアなど、障害児や障害者の方々と接する機会を積極的に活用してください。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-1 多様な他者を理解しようとする力	障害の概念と障害児保育の歴史の変遷を理解し、障害児保育を支える理念を理解している。 障害についての知識があり、保育における発達の援助の概要を理解している。
		子どもが仲間のなかで育つことへの視点を持ち、インクルーシブな保育・教育について理解をしている。
○	2-1 自ら課題を発見しようとする力	関係機関との連携、家庭への支援や連携についての概要を理解している。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	40
小テスト	0
レポート	40
発表・実技	10
授業内課題	10
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	授業実施方法と内容の概要を説明する。障害の概念について説明し、理解を深める。	障害への自らの認識を振り返る	45
2	障害児保育の歴史の変遷	障害児保育の歴史的変遷・育活動における支援と教育の役割について学ぶ。	障害児についての新聞記事を通読	45
3	インクルーシブ保育・教育	インクルーシブな視点とはなにか、障害児保育が担う役割やインクルーシブ保育・教育にかかわる理念や仕組みを学ぶ。	新聞記事についての意見を記述	45
4	障害児の理解と援助①	肢体不自由・視覚障害・聴覚障害を理解し、子どもへの援助について学ぶ。	授業配布資料を通読	45
5	障害児の理解と援助②	知的障害を理解し、子どもへの援助について学ぶ。	資料「気になる子ども」を通読	45
6	障害児の理解と援助③	発達障害（学習障害、注意欠如多動性障害、発達性協調運動障害）を理解し、子どもへの援助について学ぶ。	気になる子どもについて論述	45
7	障害児の理解と援助④	発達障害（広汎性発達障害など）を理解し、子どもへの援助について学ぶ。	発達障害についての資料を通読	45
8	障害児の理解と援助⑤	母国語や貧困、アタッチメントの発達を含む特別な配慮を必要とする個別のニーズを理解し、子どもへの支援について学ぶ。	アタッチメントについて復習	45
9	障害児保育の実際①	障害児保育における子どもと保育者の関係性と支援	プリント整理	45
10	障害児保育の実際②	仲間とともに育つことの意義を考え、配慮や援助の方法について学ぶ。	保育者との関係性の資料を通読	45
11	障害児保育の実際③	加配や障害児支援施設の利用などによる支援や教育、自立活動の目的と方法について学び、それぞれの意義について検討する。	仲間とともに過ごす意義を論述	45
12	障害児保育の実際④	特別支援教育コーディネーター、障害児支援施設や発達支援センターなどの関係機関との連携について学び、支援体制の構築への理解を深める	支援制度について復習	45
13	障害児保育の実際⑤	保護者への支援・保護者との連携への考え方や方法を学ぶ。	支援体制についての資料を通読	45
14	保育者・職員間の協働	園における協力体制の構築の方法・連携の意義について学び、園内における事例検討による協働のプロセスについても理解をする。	事例検討についての資料を通読	45
15	学修のまとめ	1回目から14回目までの学習内容についての理解度を確認するための学修のまとめ（60分）を行い、解説（30分）によって理解を深める。	これまでの授業内容を復習	90

《専門教育科目》

科目名	特別支援教育B	科目ナンバリング	C1022SZH054
担当者氏名	杉田 律子	担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1 ・ 選
		開講年次・開講期	2 年 ・ II 期

《授業の概要》

2007年4月より特別支援教育の対象は軽度発達障害児まで、また通常学級で学ぶ子どもへの支援まで含まれるようになった。今後は一層、インクルージョンが進むと予測され、すべての学校教員が特別な教育支援を必要とする子どもたちの支援を学ぶ必要がある。この講義では、保育者を目指す者として、最低限必要な障害の理解、特別支援教育の歴史的背景について学ぶとともに、子ども達とその家族への支援について考えることができることを目標とする。

《テキスト》

『新版キーワードブック特別支援教育—インクルーシブ教育時代の基礎知識—』玉村久二彦ら編、クリエイツかもがわ

《参考図書》

授業内に随時紹介

《授業外学習》

グループごとにテーマを設定し、グループ研究を行います。そのため、コンピューター室にてグループ研究の時間を設けるが、授業外においても積極的に文献研究、発表用のスライド作成を行うこと。他者にはわかるように説明するプレゼンテーション能力の向上に努めること。

《学習状況・理解度の確認》

小テストや課題の添削、コメントを付けて返却を行う。また、オフィスアワーや授業の前後での質問に応じる。筆記テストについては、要点の解説をおこない知識の定着を図る。

《備考》

必要に応じてアクティブラーニングゾーンおよびPCルームを使用してグループ研究を行うため、積極的に自主学習に取り組むことを期待します。担当者は難聴乳幼児通園施設にて勤務経験のある実務経験者。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
○ 1-1 多様な他者を理解しようとする力	特別支援を必要とする幼児、障害の特性および心身の発達を理解する。
○ 2-1 自ら課題を発見しようとする力	特別支援を必要とする幼児の課題を理解する。
◎ 3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	特別支援を必要とする幼児の課題を理解し、支援の方法を理解する。
	子どもに適した支援方法を学び、教材研究の方向性を理解できる。家族への支援について考えることができる。
	外国籍の子ども、家庭養護に問題がある子どもなど教育的ニーズのある幼児の困難さとその対応を理解する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	50
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	30
授業内課題	20
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション/特別支援教育の意義、支援の場	授業の進め方(グループ研究)の説明とグループ編成を行う。特別支援教育の意義の理解と支援機関について理解する。	学習のまとめプリント	45
2	特別支援の方法(1)	保育・教育における特別支援の方法について(知的障害、発達障害など)	学習のまとめプリント	45
3	特別支援の方法(2)	保育・教育における特別支援の方法について(感覚障害、肢体不自由など)	学習のまとめプリント	45
4	特別支援の方法(3)個別の教育支援計画	特別支援教育に関する教育課程、個別の指導計画及び個別の教育支援計画について	学習のまとめプリント	45
5	特別支援の方法(4)福祉との連携	保育・教育機関だけでなく社会福祉機関など地域の資源を活用した支援の方法について(貧困・外国籍の子どもの問題など)	学習のまとめプリント	45
6	特別支援の方法(5)保健・医療	それぞれの障害特性について理解し、医療的な支援の基礎的事項を理解し、医療機関の活用した計画立案の方法について学ぶ。	学習のまとめプリント	45
7	特別支援の実際(1)障害特性の文献研究	グループでテーマとする障害を決めて、その障害特性について文献研究を中心としたアクティブラーニングを行う。	各グループ文献研究とスライド作成	60
8	特別支援の実際(2)支援法の文献研究	グループでテーマとする障害を決めて、その障害特性について文献研究を行い、支援が必要な事柄をまとめるアクティブラーニングを行う。	各グループ文献研究とスライド作成	60
9	特別支援の実際(3)発表用スライドの作成	文献研究の成果について発表用スライドを作成し発表を行う(中間発表)またそれぞれの発表について意見交換を行う。	スライド・発表原稿の作成	60
10	特別支援の実際(4)グループ研究(指導計画の作成)	特別支援が必要な子どもに対し、どのような支援を行うのか、各グループで指導計画を立てるアクティブラーニングを行う。	各グループ調査、スライド作成	60
11	特別支援の実際(5)グループ研究(教材研究)	指導計画に基づき、教材研究などを行うアクティブラーニングを行う。	各グループ調査、スライド作成	60
12	特別支援の実際(6)発表用スライドの作成	研究の成果の発表用スライドを作成するアクティブラーニングを行う。	スライド・発表原稿の作成	60
13	特別支援の実際(7)グループ研究本発表	学習の成果を発表用スライド用いて発表。他グループの発表内容を評価するアクティブラーニングを行う。	スライド・発表原稿の作成	60
14	特別支援の実際(8)グループ研究のまとめ	グループ発表を振り返り、教育目的を達成するため適切な研究が行われたのかを内省する。	学習のまとめプリント	60
15	学修のまとめ	1～14講の学習内容についての理解度を評価するため学習の振り返りを行い、その後の解説により理解を深める。	学習のまとめプリント	60

《専門教育科目》

科目名	日本語(読解と表現)			科目ナンバリング	C1011L◇-001
担当者氏名	野田 直恵			担当形態	クラス分け
授業方法	演習	単位・必選	2	・ 必	開講年次・開講期
					1年・I期

《授業の概要》

大学での学習・就職活動および、日常生活・社会生活などにおいて必要な、漢字・慣用表現・文章表現法・敬語の用法といった日本語の基礎的知識と表現のあり方を学ぶ。原則として、単元の説明・解説を受けたあと、課題に取り組むというスタイルで授業を進める。

《テキスト》

丸山顯徳編『キャリアアップ国語表現法』(嵯峨野書院) 21訂版

《参考図書》

佐藤一明『秘書検定3級に面白いほど受かる本』(KADOKAWA)
他は授業時に紹介する。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-3 コミュニケーション力	「和顔愛語」を心がけ、コミュニケーションを円滑に進めるための基本的な言語表現知識を習得する。
○	1-4 情報を収集、処理、発信できる力	情報の収集・発信のための、漢字・慣用表現・敬語・文書についての基本的な知識を習得する。

《授業外学習》

文字表現分野の単元については、解答を配布するので、単元に入る前に各自で問題を解き、答え合わせをすませておくこと。日本漢字能力検定などの受検も視野に入れた学習を心がけるようにする。
授業時に取り組んだ課題については、次回の授業までに内容を整理し、復習しておくこと。
文字表現分野の予習・前回の授業内容の復習をすませていることを前提に小テストを行う。不明な点があれば、担当者に遠慮なく質問してください。

《学習状況・理解度の確認》

授業時に複数回実施する小テスト・複数の課題等(授業内外)・試験の評価を総合して学習状況を確認する。小テスト・課題等については全体的な講評を行い、必要に応じて個人にコメントする。

《備考》

授業ではWeb教材も活用する。PC(タブレット、スマートフォンも可)を毎回持参すること。
授業進捗状況等により学習内容を若干変更する場合がある。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	40
小テスト	40
レポート	5
発表・実技	0
授業内課題	15
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	ガイダンス 漢字の習得	授業についての説明 ※「」はテキストの単元名。 文字表現分野「漢字習得の近道」漢字を習得するための効果的な方法	漢字の部首の復習	45
2	敬語の種類 同音異義語	口語表現分野「待遇表現①」さまざまな敬語の種類とその用法 文字表現分野「同音異義語」同音異義語の識別方法	同音異義語の復習	60
3	敬意の表現 同訓異義語	口語表現分野「待遇表現②」敬語や言い回しを通じた敬意の表現法 文字表現分野「同訓異義語」同訓異義語の識別方法	同訓異義語の復習	60
4	手紙の形式 生活の中の難読語	文章実践分野「手紙と葉書①」手紙などの基本的な書き方 文字表現分野「音訓と熟語」特別な読み・難しい読みの日常語	身近な葉書の観察	60
5	手紙の文面 熟語の成り立ち	文章実践分野「手紙と葉書②」お礼状の書き方 文字表現分野「熟語の構造」熟語の意味のとらえ方	お礼状の例文調査	60
6	一般的な文書の書式 生活の中の四字熟語	文章実践分野「ビジネス文書」会社などにおける書類の形式 文字表現分野「四字熟語」誤用しやすい四字熟語	四字熟語の復習	60
7	さまざまな文書 送り仮名の付け方	文章実践分野「日誌」実習日誌などを書く注意点／「案内状」手紙との違い	身近な日誌の書式確認	90
8	文の書き方 生活の中の慣用表現	文章作成分野「文のしくみ」文の内容をわかりやすくする工夫 文章作成分野「慣用表現の誤用」慣用表現の本来の意味と誤用の例	身近な文の構造確認	90
9	文と文章 日本語の表記	文章作成分野「文章構成」／「文章の要約」構造から考える文章の組み立て方	慣用表現の使用例確認	90
10	思考と言葉 感情と言葉	文章作成分野「アイデアの開発」／「ディベート」／「レトリック」道具としての言葉	身近な事象からの問題点の発見	60
11	文章をまとめる方法 他者の文章に学ぶこと	文章実践分野「レポート・小論文」論文の基本的な構造 文章実践分野「論説文と批評文」目的によって異なる文章の書き方	身近な文章の構造分析	90
12	自身について知るべきこと 自身を表現する手段	文章実践分野「履歴書」／「エントリーシート」言葉がもたらす印象 口語表現分野「面接の作戦・自己アピール」言葉の効果的な使い方	自己分析の試行	90
13	敬語表現の応用	口語表現分野「接客・電話の応対」待遇表現の総合的復習	待遇表現の復習	60
14	言葉が表現にしめる位置	口語表現分野「プレゼンテーション」伝達のための表現の総合的復習	文章の要約練習	90
15	授業のまとめ	授業全体についてのふり返りとまとめ	全体の復習	120

《専門教育科目》

科目名	日本国憲法	科目ナンバリング	C1012L◆-007
担当者氏名	衣笠 謙三	担当形態	クラス分け
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選必
		開講年次・開講期	1 年 ・ II 期

《授業の概要》

日本国憲法の基本項目（「国民主権」「平和主義」「基本的人権の保障」など）について講義する。短期大学部生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「日本の防衛と国際貢献」「家族生活・雇用労働と平等」「子どもの学習権」などについては時間をとって、検討することにした。憲法改正論議が進められている今日、「憲法の保障と改正」についても、検討を深めたいと考えている。

《テキスト》

『新時代の法学と憲法』建帛社

《授業外学習》

- 予習として教科書を読んでおくこと。
- 配付プリントの内容を復習すること。

《学習状況・理解度の確認》

講義の前後で質問を受け付ける。

《参考図書》

『憲法学教室 第3版』浦部法穂、日本評論社、2016
『憲法 第5版』辻村みよ子、日本評論社、2016
その他、授業中に、適宜紹介する。

《備考》

法的思考を培い、現代社会を見る眼を養ってください。科目担当者は実務経験者であり、平成21年より弁護士として法律事務所にて勤務。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 2-2 社会や文化について理解する力	日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
	日本国憲法と現代社会とのかかわりについて、裁判例の研究を通じ具体的に理解する。
○ 2-1 多様な見方や考え方ができる力	裁判例の研究などを通じて、日本国憲法をめぐる諸問題につき、多様な考え方があることを理解する。
	日本国憲法をめぐる諸問題につき、主体的に考究する力を養う。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	70
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	0
その他(出席)	30
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	憲法とは何か	①社会の規範、法の種類、法システム、②国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。	テキスト通読	60
2	日本の憲法のおいたち	①明治憲法の成立過程と特質、②日本国憲法の成立過程と特質、③「憲法の保障と改正」をめぐる議論について説明することができる。	テキスト通読	60
3	人権の性格と歴史	①人権の特色・種類、②「消極国家と自由権保障」「積極国家と社会権保障」、③「人権の制約」などについて説明することができる。	テキスト通読	60
4	基本的人権の保障 (1)	①「法の下での平等」原則について、また、②「家族生活と平等」「雇用労働と平等」などの現状と課題について、説明することができる。	テキスト通読	60
5	基本的人権の保障 (2)	精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。	テキスト通読	60
6	基本的人権の保障 (3)	精神的自由権（「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。	テキスト通読	60
7	基本的人権の保障 (4)	①経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、②国務請求権の意義・内容について、説明することができる。	テキスト通読	60
8	基本的人権の保障 (5)	社会権（「生存権」「教育を受ける権利(とくに「子どもの学習権」)」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。	テキスト通読	60
9	参政権と義務	①公務員の選定・罷免権の内容について、また、②国民の義務について、説明することができる。	テキスト通読	60
10	国民主権 (1)	①国会の組織、②各議院の組織・権能、③国会議員の特権の内容などについて説明することができる。	テキスト通読	60
11	国民主権 (2)	①内閣の組織・権能、②議院内閣制の内容などについて説明することができる。	テキスト通読	60
12	国民主権 (3)	①司法権独立の意義、②裁判所の組織・権能、③司法の民主的統制など、④「地方自治」の意義・内容などについて説明することができる。	テキスト通読	60
13	平和主義	①前文の「平和主義」関係部分、第9条の内容、②「日本の防衛と国際貢献」のあり方をめぐる議論について説明することができる。	テキスト通読	60
14	国民主権 (4)	「象徴天皇制」の意義・内容などについて説明することができる。	テキスト通読	60
15	まとめ	これまでの学習内容を再確認するとともに、その学習成果を具体的に説明することができる。	学習内容の整理	120

《専門教育科目》

科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）			科目ナンバリング	C1022SZH056
担当者氏名	福田 規秀, 半田 結, 日坂 歩都恵, 三浦 摩美, 井上 朋子, 石川 恵美, 杉田 律子, 山村 けい子, 三宅 美由紀, 足立			担当形態	複担
授業方法	演習	単位・必選	2	・ 選	開講年次・開講期
					2 年 ・ II 期

《授業の概要》

教師・保育者として身につけておくべき①使命感や責任感、教育的愛情や職業的倫理観に関する事項②社会性や対人関係能力に関する事項③幼児理解や学級経営、さらに職員間の協働や関係機関との連携に関する事項④保育内容等の指導力に関する事項⑤家庭支援等に関する事項について、教育委員会や幼稚園・保育所・認定こども園等から講師を招聘しての講義や、テーマを設定したロールプレイング、グループ討論、成果発表等を通して学ぶ。

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』文部科学省, フレーベル館、『保育所保育指針解説』厚生労働省, フレーベル館、『幼児連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府, フレーベル館

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業外学習》

教職課程の総括として行う演習であるため、履修前に各グループ担当教員の面談を行い、履修カルテを手掛かりにして、自分の学びを振り返り自身の課題を発見する。自身が不足している知識・技術を補う努力が必要である。

講義ごとの課題に沿ったレポートを、個人またグループごとに作成し、その内容をもとにグループ討論を行う。討論を通して評価を行うための知識を深める。

《学習状況・理解度の確認》

オフィスアワーや講義の前後を活用して、質問を受け付ける。講義課題に沿ったレポート課題については、できる限り添削し、コメントをつけて返却する。

《備考》

グループ討議等積極的に参加すること。履修カルテの活用により自らの学びの振り返りをして下さい。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	1-2 自己を分かりやすく表現しようとする力	自己主張をしながらも、相手の立場を思いやり、相手の意見を否定しないコミュニケーション力を身に付ける。
◎	3-2 自らの実践を振り返り、自己を高めようとする力	グループ討論や課題発表を通して、保育者として必要な知識と技術を確認し、今後の課題を考える。
		課題に対して自宅学習を行いその成果をグループ間の意見交換の場で発表する反転学習に対して積極的に取り組む。
		自宅学習を含むグループ活動に対する自己評価を通して、自己を客観的に捉え、今後の課題を考える。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	45
発表・実技	0
授業内課題	45
その他(課題への取組)	10
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	兵庫大学短期大学の建学の精神と保育科教育科目の再確認をする。講義の進め方を理解し、履修カルテの手直しを行う。	キャンパスガイドの通読	45
2	使命感や責任感、職業的倫理観に関する事項(1)	学びの①使命感や責任感、教育的愛情や職業的倫理観、人権の尊重に関する事項についての講義。(教育委員会からの講師招聘を予定)	講義レポートの作成	45
3	使命感や責任感、職業的倫理観に関する事項(2)	講義(2)講演の内容を受けて、KJ法を用いたグループ討論を行い、保育の本質と保育者としての資質について理解を深める。	グループ活動レポートの作成	45
4	使命感や責任感、職業的倫理観に関する事項(3)	講義(3)の内容を受けて、保育者の使命感、教育的愛情、職業的倫理観、人権意識に関する事項の演習、レポート作成を通して理解を深める。	グループ活動レポートの作成	45
5	保育者の社会性や対人関係能力に関する事項(1)	学びの②社会性や対人関係能力について、ストレス耐性のチェック、グループ討論を通して、自分の行動特性を理解し、対処を考える。	行動特性のレポートを作成	45
6	保育者の社会性や対人関係能力に関する事項(2)	他者との問題解決方法を事例を通して考える。トラブル場面を事例とするロールプレイング等を通して対処方法を学ぶ。	グループ活動レポートの作成	45
7	学級経営、職員間の協働や関係機関との連携(1)	学びの③幼児理解や学級経営、さらに職員間の協働や関係機関との連携に関する事項についての講義。(附属幼稚園から講師招聘を予定)	講義レポートの作成	45
8	学級経営、職員間の協働や関係機関との連携(2)	講義(7)を受けて、事例を基にしたグループ討論を行い、幼児理解と学級運営についての理解を深める。	グループ活動レポートの作成	45
9	学級経営、職員間の協働や関係機関との連携(3)	事例を基にしたグループ討論やロールプレイング等を行い、職員間の協働や関係機関との連携の方法について理解を深める。	グループ活動レポートの作成	45
10	保育内容等の指導力(1)	学びの④保育内容等の指導力に関する事項についての講義。(保育所から講師招聘を予定)	講義レポートの作成	45
11	保育内容等の指導力(2)	講義(10)講演の内容をうけて、保育内容の指導力の大切さ、専門性向上のための試みについて、グループ討論を通して理解を深める。	グループ活動レポートの作成	45
12	保育内容等の指導力(3)	保育内容の指導力について、事例ごとにねらい、内容、方法、評価について分析シートを用いたグループ討論を行い、理解を深める。①	グループ活動レポートの作成	45
13	保育内容等の指導力(4)	保育内容の指導力について、事例ごとにねらい、内容、方法、評価について分析シートを用いたグループ討論を行い、理解を深める。②	グループ活動レポートの作成	45
14	家庭支援等に関する事項	学びの⑤家庭支援等に関する事項について、特別支援の必要な事例を通してのグループ討論を行い、その支援の在り方について考える。	グループ活動レポートの作成	45
15	学修のまとめ	1~14週の学習を振り返ってレポートを作成し、全体講評(質疑応答を含む)により、自己成長を確認する。	学修レポートの作成	45

《専門教育科目》

科目名	保育内容・環境		科目ナンバリング	C1021SYH046	
担当者氏名	藤井 恵子		担当形態	単独	
授業方法	演習	単位・必選	2	・ 選	開講年次・開講期
					2 年 ・ I 期

《授業の概要》

現代の幼児を取り巻く環境や幼児と環境との関わりについての専門的事項を踏まえ、幼稚園教育要領、保育所保育指針に示された領域「環境」のねらい及び内容について理解を深め、具体的な指導場面と想定した保育の構想、指導方法を身につける。

《授業外学習》

・教科書の指定範囲は必ず読み、用語や意味を調べてくる。・配布した資料は必ず目を通し、理解を深める。・指定した課題はレポートを作成し提出をする。

《テキスト》

『保育内容「環境」』小田豊著 共著 北大路書房『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『認定こども園教育・保育要領』

《学習状況・理解度の確認》

・レポートは、コメントを付して返却する。
・分からないことは毎授業終了時等に質問を受け付ける。

《参考図書》

『事例で学ぶ保育内容「環境」』 無藤隆著 萌文書店

《備考》

・四季折々の自然環境を取り入れるので、必要なものを持参する。
・テキストは資料と並行して活用するため、毎回持参する。
・担当者は園長経験のある実務経験者

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-1 多様な他者を理解しようとする力	演習を通して、どのような環境構成や援助が求められているのか保育者の役割と援助等を考えることができる。
○	3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」の保育内容「環境」についての「ねらい」「内容」等について理解する。
○	3-2 自らの実践を振り返り、自己を高めようとする力	保育者自身が子どもにとって最も大きい環境であることを理解し、望ましい環境等、実践力を身に付ける。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	0
レポート	20
発表・実技	10
授業内課題	10
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション 環境を通した保育	本授業の学習内容と学習方法、履修上の諸注意について確認する。「環境を通した保育」について理解する。	テキストp.1～p.12 通読	60
2	領域「環境」のねらいと内容	領域「環境」のねらい及び内容について理解する。	保育指針・教育要領通読	60
3	保育内容「環境」と幼児理解	0歳児から5歳児までの発達と特徴について理解する。発達の順序性と連続性について乳幼児の遊びや活動の事例から理解する。	テキストp.13～p.30 通読	60
4	好奇心や探究心を育てる指導	好奇心や探究心を育てる指導について理解する。	テキストp.31～p.41 通読	60
5	思考力の芽生えをはぐむ指導	環境とかかわるなかで、思考力の発達がどのように育まれるか考える。	テキストp.43～p.54 通読	60
6	人的環境としての友だち・保育者	人的環境としての友だちや保育者の特性を考える。	テキストp.58～p.66 通読	60
7	物的環境としての園具・遊具・素材(1)	園内の生活環境を理解する。園内の遊びの環境に関わる中で育つものは何かについて考える。	テキストp.69～p.74 通読	60
8	物的環境としての園具・遊具・素材(2)	園具・遊具・素材の特性や配慮事項を知る。環境を構成するにあたり、時間・空間という視点から考える。	テキストp.75～p.93 通読	60
9	自然環境としての動植物	身近な動植物との関わりや園外の自然、季節の関わり等を実践事例を通して理解する。	テキストp.95～p.113 通読	60
10	日常生活のなかでの興味や関心(1)	さまざまな園外保育での場面、日常生活における暮らし方を考える場面、日本の伝統文化とかかわる場面について考える。	テキストp.107～p.123 通読	60
11	日常生活のなかでの興味や関心(2)	園生活や活動、遊びの中で数量・図形等への関心を豊かにする援助について考える。	テキストp.111～p.113 通読	60
12	地域・行事とのかかわり	園内行事と子どもの関わり、地域の行事と子どもの関わりを具体的な実践事例をもとに考える。	テキストp.125～p.133 通読	60
13	「環境」からみた道徳性の芽生えを培う指導	保育環境がもたらす乳幼児期の道徳性の芽生えについて考える。	テキストp.137～p.146 通読	60
14	乳幼児期の安全環境	養護の視点、教育の視点から見る安全管理についていかに実践されているのかを理解する。	テキストp.149～p.159 通読	60
15	学習のまとめ	授業の振り返りと理解度を再確認し、環境についての具体的な学びを説明することができる。	授業内容の整理	60

《専門教育科目》

科目名	保育内容・健康			科目ナンバリング	C1021SYH044
担当者氏名	日坂 歩都恵			担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2	・ 選	開講年次・開講期 2年・I期

《授業の概要》

領域「健康」の指導に関する幼児の心身の発達や基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達等の専門的事項についての知識や技能を身につける。幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらい及び内容について背景にある専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発育・発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。

《テキスト》

『保育をめざすあなたへ こどもと健康』第2版 勝木洋子・日坂歩都恵・大和晴行編著 みらい
『幼稚園教育要領』文部科学省 フレーベル館 2018

《参考図書》

『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018
『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』内閣府
文部科学省 厚生労働省 フレーベル館 2018

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 1-1 多様な他者を理解しようとする力	社会は多様な人種・性格・男女・個性、価値観などで構成されている。多様性の理解から始まる。
○ 2-2 自ら課題を解決しようとする力	他者の理解と共に自己の考え、人間性なりを表現できることの大切さを学ぶ。
○ 3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	保育の分野の基礎的理解や技術が必要不可欠であり、実際の保育現場で発揮できる力を培うことを理解する。

《授業外学習》

テキストを範囲指定した所や配布資料は必ず通読をしてくる。健康的な基本的な生活に関心を持ち、指定した語句や項目について調べてくる。保育施設等に出向き、地域近隣における乳幼児の行動や遊びの内容、人との関わり等の様子を観察する。

《学習状況・理解度の確認》

課題提出はその内容の理解ができていないか確認する。分からないことは毎授業終了時などで質問を受けつける。

《備考》

学生と応答的關係で授業を展開し、一人一人の学習意欲を高める。クラスの一員である自覚のもと、協調的な受講態度を期待する。グループワークやディスカッションによる授業もある。実務経験者である。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	20
授業内課題	20
その他(授業態度)	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション 子どもの健康と環境	授業概要、授業方法、評価方法などの説明 健康に関する世界の流れや人間の権利と健康について学ぶ。	テキスト通読 p.10～p.17	45
2	発育と発達を理解	子どもの身体的発達、神経系の発達等を理解する。	テキスト通読 p.18～p.35	45
3	環境の現状と健康課題	子どもの生活と遊びの現状と健康課題について学ぶ。	テキスト通読 p.36～p.49	45
4	領域「健康」のねらいと内容	「3つの視点」と「5領域」のなかの領域「健康」について理解する。	テキスト通読 p.55～p.64	60
5	領域「健康」のねらいと内容	3歳以上児の保育に関わる領域「健康」のねらいと内容について理解する。	テキスト通読 p.65～p.76	45
6	子どもの基本的な生活習慣	基本的習慣の自立の重要性と保育者の援助について学ぶ。	テキスト通読 p.78～p.97	45
7	食育と栄養	食育の基本と食育の実践について学ぶ。	テキスト通読 p.101～p.112	45
8	子どもの運動遊び	運動遊びや群れ遊びの重要性を理解する。	テキスト通読 p.114～p.124	45
9	運動遊びの実践	運動が不得意な子どもへの支援等について学ぶ。	テキスト通読 p.126～p.152	45
10	指導計画の作成	指導案作成の考え方とポイント、活動内容や環境構成を学ぶ。	テキスト通読 p.154～p.163	45
11	模擬保育と評価	模擬保育の振り返り、保育の課題について学ぶ。	模擬保育準備・評価	60
12	子どもの事故や病気	事故や病気等の対応、大きな事故や小さな事故の対応について理解する。	テキスト通読 p.176～p.181	45
13	感染症の予防と対応	保育における感染症の予防と対応について学ぶ。	テキスト通読 p.183～p.189	45
14	安全教育と保健計画	保育における安全教育と安全管理について学ぶ。	テキスト通読 p.187～p.194	45
15	子どもの健康の今後の課題と展望	学修のまとめ	全体的な学修の振り返り	90

《専門教育科目》

科目名	保育内容・言葉	科目ナンバリング	C1012SYH047
担当者氏名	石川 恵美	担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2 ・ 選
		開講年次・開講期	1 年 ・ II 期

《授業の概要》

言葉の機能と、乳幼児期の言葉の獲得のプロセスを学ぶ。乳幼児は、日常生活の中で、人との関わりを通して言葉を獲得する。また、言葉を使って物を認識し、想像力や創造力が育つ。その指導方法や、子どもの「言葉」の引き出し方について具体的に学ぶ。視聴覚教材等ICTを活用した授業を展開する。

《授業外学習》

子どもと関わる機会を作り、乳幼児期の子どもの「言葉」について興味を持ち、「言葉」の発達について理解を深めるように意識する。より多くの絵本に触れ、絵本のレポーターを増やす。

《テキスト》

『新・保育と言葉』石上浩美編著 嵯峨野書院 2022年

《学習状況・理解度の確認》

分からないことがあれば、授業終了後に質問を受け付ける。

《参考図書》

『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 2018 他
適宜、授業内で紹介する。

《備考》

保育実践教室で授業を実施する場合もある。主体的かつ意欲的に授業に参加することを期待する。担当者は、保育士・幼稚園教諭として保育所・幼稚園勤務歴のある実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
○ 1-1 多様な他者を理解しようとする力	乳幼児の言葉の発達過程について、言葉の機能への気付きも含めて説明できる。
◎ 1-2 自己を分かりやすく表現しようとする力	言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉を豊かにする実践を、子どもの発達の姿と合わせて説明できる。
○ 3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	子どもの発達における児童文化財の意義について理解する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	50
小テスト	0
レポート	20
発表・実技	10
授業内課題	0
その他(創作絵本)	20
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	領域「言葉」のねらいと内容とは 絵本の読み聞かせの意義について	テキスト通読	45
2	保育の基本と言葉の獲得に関する領域「言葉」	保育内容「言葉」のねらいと内容を理解し、保育者の役割を知る。	テキスト通読	45
3	乳児期の言葉の発達	乳児期の「言葉」の発達段階と他者との関わりを知る。 乳児向けの絵本について学ぶ。	テキスト通読	45
4	幼児期の言葉の発達①	幼児期の「言葉」の発達段階を知り、生活や遊びの中の「言葉」を理解する。	テキスト通読	45
5	幼児期の言葉の発達②	話し言葉から書き言葉の獲得のプロセスについて学ぶ。	テキスト通読	45
6	手段・道具としての言葉	言語的コミュニケーションとしての「言葉」を理解し実践する。オノマトペや動きを誘発する言葉の具体例について学ぶ。	テキスト通読	45
7	言葉の獲得に関する領域「言葉」と多領域との関係①	身体機能の発達と「言葉」について学ぶ。 知覚・認知機能の発達と「言葉」について学ぶ。	テキスト通読	45
8	言葉の獲得に関する領域「言葉」と多領域との関係②	人間関係の発達と「言葉」について学ぶ。 世界環境の発達と「言葉」について学ぶ。	指導計画立案	45
9	言葉の獲得に関する領域「言葉」の指導計画と評価	指導計画の種類や内容について理解し、指導計画を立案する。	指導計画加筆修正	45
10	言葉の遅れのある子ども等に対する「言葉」の支援	言葉の遅れについて考える。 発達障害のある子どもに対する特別支援教育について学ぶ。	テキスト通読	45
11	「言葉」の世界を広げる児童文化財	絵本・物語・紙芝居等の児童文化財の意義について学び、子どもに伝える際の留意点について知る。	テキスト通読	45
12	これからの幼児教育の課題と保育内容領域「言葉」	保育・教育環境の現状と課題及び幼・保・小一体化に向けた取り組みについて知る。	テキスト通読	45
13	創作絵本発表会①	自作の創作絵本を学友の前で読み聞かせ、保育実践を行う。	創作絵本の読み聞かせ練習	45
14	創作絵本発表会②	自作の創作絵本を学友の前で読み聞かせ、保育実践を行う。	創作絵本の読み聞かせ練習	45
15	学習のまとめと振り返り	授業の内容を振り返り、到達目標の達成度を確認する。	到達目標の達成度を確認する。	45

《専門教育科目》

科目名	保育内容・人間関係			科目ナンバリング	C1012SYH045
担当者氏名	山村 けい子			担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2	・選	開講年次・開講期 1年・Ⅱ期

《授業の概要》

乳幼児は子どもの人間関係の基礎を作る重要な時期であり、その多くは、人との関わりの中で培われていく「生きる力」の基礎は、子ども自身の「人間関係」や子どもを取り巻く「人間関係」の中で自分からつかみとったり、教えられたりすることによって身についていくものである。乳幼児の様々な姿、活動から行動を分析し、心を読み取り、より良い援助ができる力をつけ、保育者が重要な役割を担う事の理解を深める。

《テキスト》

濱名浩編著『保育内容 人間関係[第2版]』（2018）みらい社
文部科学省『幼稚園教育要領』（2018）厚生労働省編『保育所保育指針解説書』（2018）他

《参考図書》

民秋言・小田豊他著（2019）『保育内容 人間関係』北大路書房
房佐藤真久・阿部治著（2012）『持続可能な開発のための教育 ESD入門』筑波書房
松岡広路著『生涯学習の探究』学文社他

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 1-1 多様な他者を理解しようとする力	幼稚園教育要領、保育所保育指針等の解説を熟読し理解する。乳幼児の良き支援者になるために積極的に関わる。
○ 2-1 自ら課題を発見しようとする力	様々な子どもの姿、事例から保育者としての言葉がけ、支援、援助を学び、課題を見つける。
○ 2-2 自ら課題を解決しようとする力	高齢者を始め地域の人々、多文化など自分の生活に関係の深いいろいろな人を理解し、課題に対して向き合う。

《授業外学習》

事前学習として教科書の指定箇所を予習しておく。授業後の復習で疑問点を質問できるように考える。保育雑誌、新聞等で社会情勢を知り、保育者としての資質を高めるようにする。ボランティア活動などに参加する。PBL学習も取り入れる。

《学習状況・理解度の確認》

グループで話し合い発表をする。・レポートは授業中に一緒に振り返りを行うか、コメントを付して返却する。・学習のまとめの後に振り返りを行い、理解度を確認する。ICT活用（同時双方向）

《備考》

授業中の私語、携帯電話の使用、飲食は禁止。科目担当者は保育所（保育士）勤務経験のある実務経験者

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	0
レポート	20
発表・実技	10
授業内課題	10
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の「ねらい」「内容」を理解する。PBL学習も取り入れる。	保育所保育指針等	60
2	領域「人間関係」のねらいと内容及び配慮事項	未来の社会を生きる子どもたちに求められる幼児教育と「人間関係」、幼児を取り巻く現代課題等を理解する。	テキストp.10～p.39	60
3	子どもの人間関係をめぐる課題と将来像	少子高齢社会における子どもの行方、多様化する家族形態が抱える諸問題と子育て支援について学ぶ。	テキストp.40～p.50	60
4	持続可能な開発のための教育（ESD）多文化保育等	文部科学省による「2030年の社会と子供たちの未来」ユネスコが提唱する「ESD」を学び理解する。	テキストp.48資料等	60
5	子どもの人間関係①ーおおむね0歳から3歳未満ー	愛着と信頼関係の形成、人間関係の発達と情緒の安定、自我の発達を学び、乳児期を理解をする。	テキストp.51～p.73	60
6	子どもの人間関係②ーおおむね3歳以上ー	他者への意識と協同での生活や活動、自律の芽生え、道徳性、規範意識の芽生え等から幼児期を理解する。	テキストp.74～p.87	60
7	遊びと人間関係の発達	乳児、幼児と発達にあわせてふれあい遊び、集団あそび等を調べ、考えて実践をし、説明をすることができる。（指導案作成）	テキストp.86～p.92	60
8	保育者に求められるもの	「育ての心」、「共に育ち育て合う心」、専門性としての実践思考、人間関係を育てる実践の原理を学ぶ。	テキストp.93～p.107	60
9	保育者に求められる援助の視点①ー自立に向けてー	年齢別にみる援助の視点、共振的関係の構築、遊びや活動をやり遂げる（合意形成）について学ぶ。	テキストp.113～p.135	60
10	保育者に求められる援助の視点②ー協同に向けてー	友だちと共感する、協同する経験、規範意識、非認知能力等を学ぶ、地域の人々との関わりを理解する。PBL学習	テキストp.136～p.171	60
11	保育場面での気になる子どもへのかかわり	子どもの多様さ、障害児、ジェンダー、多様な文化的背景を持つ乳幼児の保育等を理解する。	テキストp.172～p.181	60
12	親の思いと家庭とのかかわりー子育て支援の視点ー	親の思いを理解しつつ共に子どもを育てていくにはどのような観点でどう取り組んでいったよいかという視点を理解する。	テキストp.182～p.197	60
13	地域子育て支援とは何か	人間関係の育ちを図る地域子育て支援の実際と人間関係の育ちを図る地域子育て支援の担い手で期待される役割を説明することができる。	参考図書・資料	60
14	これからの地域子育て支援ー支援から協働へー	これからの地域子育て支援の「支援」から「協働」について理解する。PBL学習。	参考図書・資料	60
15	学修のまとめ	学修の振り返りをして、自己評価と理解度を確認する。得られた学習内容と知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。	参考図書・資料	60

《専門教育科目》

科目名	保育内容・表現A		科目ナンバリング	C1021SYH048
担当者氏名	永井 夕起子		担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2	・ 選
			開講年次・開講期	2年・I期

《授業の概要》

表現活動が子どもの発育発達に与える影響について学ぶ。幼児期の表現の特徴について理解し、発達に応じた表現技法や遊びの展開について考える。また、自分自身の身体についての理解を深め、幅広い表現力を身につける。

《授業外学習》

- ・配布資料をファイルに管理し復習する。
- ・日ごろから様々なジャンルの音楽にふれ、リズムを楽しむ。
- ・絵本や童話を読み、想像力を身につける。
- ・繰り返し音楽に合わせて踊り、表現力を身につける。

《テキスト》

テキストは使用しない。配布したプリントをまとめるファイルを用意すること。

《学習状況・理解度の確認》

- ・提出物にはコメントを付して返却する。
- ・分からないことはオフィスアワー等に質問を受け付ける。
- ・授業の到達目標に対しては、ルーブリックを用いて自己評価および

《参考図書》

『幼保連携型認定こども園教育・保育指導要領』文部科学省2017、『幼稚園教育要領』文部科学省2017、『保育所保育指針』厚生労働省2017

《備考》

対面の際は動きやすい服装で参加すること。「ICT活用双方向型授業」

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 1-2 自己を分かりやすく表現しようとする力	自分の中にあるイメージや思いを表現するための様々な技法を身につける。
○ 2-1 自ら課題を発見しようとする力	自分の創作について振り返りシートを用いて出来栄の達成度や今後の課題を評価する。
○ 3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	多様な表現技術を統合させてひとまとまりの作品を創作し発表することができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	20
発表・実技	40
授業内課題	40
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション 領域「表現」について	授業の概要と受講上の注意。デジタルデータの保存と提出方法の説明。	受講内容についてまとめる	45
2	心と身体の結びつきを感じる	身体部位を認識する動き。身体知覚を刺激する遊び。	課題プリント	45
3	基本的なリズムステップの理解	基本ステップについて（情報機器の活用）	課題プリント	45
4	基本的なリズムステップの展開	複合的ステップについて（情報機器の活用）	課題プリント	45
5	基本ステップのまとめ	ステップの組み合わせでひとまとまりの振り	課題プリント	45
6	体や打楽器を使った遊び	ボディパーカッション。全身でリズムをつくる（情報機器の活用）	課題プリント	45
7	言葉とリズムの遊び	言葉のリズムと身体の動きを組み合わせる遊び（情報機器の活用）	課題プリント	45
8	身近な素材を使った表現遊び①	身の回りの物を利用した表現遊び（情報機器の活用）	課題プリント	45
9	身近な素材を使った表現遊び②	布や棒を使った表現遊び	課題プリント	45
10	影絵遊び	光（照明・プロジェクター）を使った表現遊び	課題プリント	45
11	造形表現と身体表現を組み合わせる	動きに色や形を繋げて遊ぶ（情報機器の活用）	課題プリント	45
12	作品づくり①	作品テーマを決め、発表会の準備を開始する。	発表会に向けた準備	45
13	作品づくり②	作品の創作および発表会のプログラム決めとパンフレットの作成。	発表会に向けた準備	45
14	発表会	発表会をする。ビデオ・写真等デジタルデータを編集する。	発表会の記録をまとめる	45
15	学修の振り返り	授業を振り返り、子どもたちの表現力を育む環境や援助について考察する。	記録を振り返り自己評価する	45

《専門教育科目》

科目名	保育内容・表現B			科目ナンバリング	C1012SYH049
担当者氏名	井上 朋子			担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2	・ 選	1年・Ⅱ期

《授業の概要》

幼稚園教育要領及び保育所保育指針における領域「表現」に示されているねらいや内容を踏まえて、音楽、造形、言語、身体などの表現領域を総合的に学びます。そして、その指導法について習得し、保育現場での実践力へとつなげます。また、諸感覚を通じた様々な表現活動を体験する中で、表現することの喜びを味わうとともに、感性を磨き、表現力を向上させることを目的とします。

《テキスト》

『手あそび・体あそび。わらべうたがいっぱい あそびうた全集200』細田淳子編著、永岡書店、2014

《参考図書》

『幼稚園教育要領』文部科学省、2017
 『保育所保育指針』厚生労働省、2017
 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』文部科学省、2017

《授業外学習》

○担当に当たった手遊びの発表は、自分で繰り返し練習を行った上で臨むこと。
 ○毎授業で習得した手遊びは、保育実習や教育実習の際にすぐに活用できるように、繰り返し復習を行っておくこと。
 ○日頃から、耳を澄ましたり、じっくり見たりする等して、身の回りの物事に対して、感覚をひらき、感じ取るように心がけましょう。
 ○授業で行った様々な活動を幼児教育の現場で行う際、さらにどのように展開できるか自分のアイデアを書き留めておきましょう。

《学習状況・理解度の確認》

毎回授業で行う手遊びの発表後には、コメントを伝える。担当以外の手遊びも自信をもって表現することができるか、授業内で適宜確認する。知識の定着を図れるよう、授業中繰り返し確認する。

《備考》

ペアワークやグループワークなど体験による学習を中心とします。授業への主体的かつ積極的な取り組みを期待します。ICT活用双方向型授業です。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-2 自己を分かりやすく表現しようとする力	様々な表現活動において、感性を働かせながら、自分なりに表現の工夫をすることができる。
○	2-1 自ら課題を発見しようとする力	様々な表現を通じ、感じたことや思いを伝えたり、他者の表現から思いや意図を感じ取ったりすることができる。
○	3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	総合的な表現活動の内容とその指導方法について理解する。
		幼児の多様な表現に気付き、引き出せる感性を磨き、感じたことや思いを意欲的に表せる表現力を身に付ける。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	20
授業内課題	20
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	本講義の概要と目標を理解し、毎回の学習内容と学習方法を確認する。	サウンドマップの作成	45
2	感覚をひらく1(耳を澄ます)	サウンドマップを元に、音について考えたり、感じたりする。自然の音に耳を傾ける。絵から音を想像する。	課題プリント	45
3	感覚をひらく2(よく見る)	絵をしっかりと見る。絵や図形からイメージを膨らませる。動きから絵を想像する。	課題プリント	45
4	感覚をひらく3(触る)	触覚について考えたり、感じたりする。箱の中に入ったいろいろな材質の物に触れる。	課題プリント	45
5	感覚をひらく4(匂い・味)	嗅覚、味覚を研ぎ澄ませる。様々な匂いや味覚を当てたり、匂いや味をテーマにした活動例を考える。	課題プリント	45
6	子どもの表現発達1(造形分野)	絵画を中心とした幼児の造形表現発達を理解するとともに、子どもの絵の見方について考える。	本時の授業の復習	45
7	子どもの表現発達2(音楽分野)	幼児の音楽表現発達を理解するとともに、発達段階を意識した音楽活動例を考える。	本時の授業の復習	45
8	オノマトペを使って1(身体を介して)	様々なオノマトペを見つける。見つけたオノマトペを身体の動きで伝える。様々なオノマトペのニュアンスの違いを身体の動きで感じる。	課題プリント	45
9	オノマトペを使って2(文字を介して)	様々なレタリングの特徴を感じ取り、様々なニュアンスの違いを声で表現したり、描き表したりする。	課題プリント	45
10	オノマトペを使って3(声を介して)	オノマトペをテーマとした絵本を知り、読み聞かせの際の工夫事項について考え、読み聞かせをする。	本時の授業の復習	45
11	領域「表現」の基本理解1	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されている領域「表現」について理解する。	本時の授業の復習	45
12	領域「表現」の基本理解2	表現領域、感覚教育に関連する歴史上の人物とその取り組みについて理解する。	本時の授業の復習	45
13	感覚を横断させて1	音から色・形、また色・形から音をイメージする等の諸感覚を横断させた活動を体験するとともに、活動例を考える。	課題学習	90
14	感覚を横断して2	諸感覚を横断させた活動案を発表する。	授業内容の整理	120
15	学習のまとめ	これまでの学習内容についての理解度を確認する。	授業内容の整理	120

《専門教育科目》

科目名	保育内容総論			科目ナンバリング	C1011SYH043
担当者氏名	青木 好代			担当形態	クラス分け
授業方法	演習	単位・必選	1	・ 選	開講年次・開講期 1 年 ・ I 期

《授業の概要》

保育所や幼稚園等での生活全体を通して総合的に指導するという考え方を理解する。
 具体的な子どもの姿と関連づけながら、環境を構成し実践するために必要な知識・技能を身に付ける。
 現在の保育の課題を探り、今後、見通した保育の実践する力を養う。

《授業外学習》

○体験を通して、保育実践のあり方を理解する。
 ○授業で学んだことを振り返り、まとめておく。
 ○保育に関する専門図書や絵本等に関心を持ち、多くの書物を読む。

《テキスト》

渡邊英則・大豆生田啓友編『保育内容総論』ミネルヴァ書房
 2020年、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』フレーベル館 2018年

《学習状況・理解度の確認》

レポート等の課題は提出、返却し、学生の理解度を確認する。

《参考図書》

文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 2018年、厚生労働省『保育勝保育指針』フレーベル館 2018年

《備考》

○一人一人が主体的に授業に参加し学習してほしい。保育に役立つ演習や講義を中心に進める。科目担当者は、幼稚園教諭経験のある実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	1-2 自己を分かりやすく表現しようとする力	生活・遊びの中の学びについて具体的事例や演習を通して理解し、表現することができる。
◎	2-1 自ら課題を発見しようとする力	保育をめぐる諸課題を察知し、情報を収集し、解決に導こうとする。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	20
授業内課題	20
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	保育内容とは何か	保育内容とは何か、子どもの姿等から学ぶ。	テキストp. 3～p. 12通読	45
2	保育内容の捉え方	保育所保育指針と幼稚園教育要領、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領が示す保育内容の構造を理解する。	テキストp. 19～p. 28通読	60
3	子どもの理解と評価の考え方	保育の全体構造と保育内容や養護にかかわる保育内容、保育内容のとらえ方を理解する。	テキストp. 33～p. 45通読	60
4	保育内容の実践	制作等を通し、「ねらい」及び「内容」について考える。	テキストp. 40～p. 59通読	60
5	指導計画の作成の理解	保育の指導計画（部分保育）を作成する。	テキストp. 53～p. 68通読	60
6	指導計画の作成の理解	保育の指導計画の振り返りと評価の視点を考える。	テキストp. 53～p. 68通読	60
7	遊びや生活と保育内容	遊びや生活の中で何が育つのか考え理解する。	テキストp. 73～p. 85通読	60
8	養護と教育が一体的に展開する保育	養護と教育が一体的に展開する保育を学ぶ。	テキストp. 91～p. 101通読	60
9	子どもの主体的を尊重する保育	主体性を尊重した保育について学ぶ。	テキストp. 105～p. 115通読	60
10	環境を通して行う保育	子どもの主体的な育ちを支える環境のあり方を理解する。	テキストp. 121～p. 136通読	60
11	個と集団の育ちを支える保育	「個」と「集団」の育ちを支える保育者に求められるものについて学ぶ。	テキストp. 141～p. 152通読	60
12	家庭や地域との連携を踏まえた保育	家庭や地域と園の連携が求められる背景やその意味について理解する。	テキストp. 157～p. 169通読	60
13	小学校への接続をふまえた保育	小学校教育との接続にあたっての留意事項について理解する。	テキストp. 173～p. 178通読	60
14	保育の多様な展開	長時間保育、特別な配慮を要する子どもの保育や多文化共生保育を理解する。	テキストp. 193～p. 207通読	60
15	保育内容の歴史的変遷と社会的背景	保育内容の歴史をみながら、保育内容の意義とあり方を理解する。	テキストp. 211～p. 227通読	60

《専門教育科目》

科目名	保育方法論	科目ナンバリング	C1012SYh050
担当者氏名	福田 規秀	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選
		開講年次・開講期	1 年 ・ II 期

《授業の概要》

子ども理解を基礎として、資質・能力を意識した子どもの自由な活動を援助する保育方法の在り方について、討論を交えながら講義していく。環境を整えて保育を実践し、その反省・評価を適切にできる知識や技術を身に付けられるよう、現場映像等のメディア視聴をはじめ、遊具体験（毎回授業はじめに行なう）、計画立案、事例検討等を交えた授業を行なう。

《授業外学習》

次回講義の予告を行うので、教科書等の該当箇所を熟読のこと。メモ等に基づき、講義内容を自分なりの方法でノートにまとめておくこと。適宜自習内容を言うので真面目に取り組むこと（実習で出会った遊具についてのレポートや保育実践を見ての感想、メディアを駆使した保育教材の探求等）。

《テキスト》

『幼児教育方法論』（学文社 2019）
『幼稚園教育要領解説』（文部科学省 2018）

《学習状況・理解度の確認》

分からないことは、オフィスアワー等を利用して、聞きに来ること。提出課題、筆記試験については、講義内で講評を行う。

《参考図書》

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府 文部科学省 厚生労働省 2018）『保育所保育指針解説』（厚生労働省 2018） その他授業中に適宜紹介する。

《備考》

子どもとメディアについて柔軟に対応。講義に持参した遊具等は積極的に触る。グループワークへの積極的な参加、適切な出席・受講態度・事前準備・レポート提出等を心掛ける。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 1-1 多様な他者を理解しようとする力	子どもの特性を理解し、その成長・発達にふさわしい経験・体験を考えることができる。 主体的な子どもの活動を引き出すには、教師の計画が重要であることを理解している。
○ 2-2 自ら課題を解決しようとする力	生きる力の基礎を培うために掲げられた資質・能力を適切に育む保育の方法について、真剣に考えることができる。 保育を行う上で道具立て（情報機器を含む）の重要性を理解し、それを活用する基礎を身に付けている。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	80
小テスト	0
レポート	20
発表・実技	0
授業内課題	0
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション 保育方法とは	①本講義の概要と目標を理解し、毎回の学習内容と学習方法を確認 ①特別な方法があるわけではない	シラバスの熟読 教科書の購入	60
2	保育方法の理念と概念	①資質・能力の意識②自らの保育観・子ども観の意識③道具立て	点検レポートへの取り組み	60
3	保育方法の歴史（戦後）	①保育要領から現在まで②不確定な時代に向けて	点検レポートへの取り組み	60
4	幼稚園教育要領等における教育・保育方法	①現在の要領等が目指すもの②資質・能力と10の姿	点検レポートへの取り組み	60
5	子どもの理解と保育方法	①子どもの内面理解②保育事例から読み取れるもの	点検レポートへの取り組み	60
6	環境を通しての保育	①様々な体験へ②豊かな体験を保障する環境構成	点検レポートへの取り組み	60
7	遊びを通しての保育	①様々な表現の理解②様々な工夫の理解	点検レポートへの取り組み	60
8	幼児の主体的な生活と保育	①学びに向かう子どもの援助②意図的・計画的な保育	点検レポートへの取り組み	60
9	様々な保育形態	①自由保育VS一斉保育？②異年齢・同年齢保育③統合保育④プロジェクトアプローチ	点検レポートへの取り組み	60
10	保育計画の実際	①全体的な計画②指導計画③カリキュラムマネジメント	点検レポートへの取り組み	60
11	計画立案 保育における評価	①指導案の立案 ①記録②カンファレンス③ポートフォリオ他	点検レポートへの取り組み	60
12	保育を活かすメディア	①オールドメディアから最新機器②メディアリテラシー③情報モラル	点検レポートへの取り組み	60
13	保育者の役割、事例検討についてのグループワーク	①望ましい姿の意識②援助者、理解者、モデル③カウンセリングマインド④メディア視聴 ⑤グループワークの実施	点検レポートへの取り組み	60
14	連携活動 諸外国の保育事例	①小学校との連携②家庭や地域との連携 ①レジャ・エミリアでの実践②メディア視聴	点検レポートへの取り組み	60
15	まとめ	①学習の振り返り（確認を含む） ②全体講評（質疑応答を含む）	自分の想い、事例対応の総点検	120